

長崎大学附属図書館の所有する「グラバー図書」

千田哲資・下村一夫・鈴木太郎・喜多芳明・松嶋勝顕

平成7年度教育研究学内特別研究報告書
「長崎大学所蔵貴重資料」

長崎大学附属図書館

1996年3月，別刷

"Glover's Collection of Literature on Fishes, Mollusks, Crustaceans, etc."
deposited at the Library of Nagasaki University

Tetsushi SENTA

(Faculty of Fisheries)

Kazuo SHIMOMURA, Taro SUZUKI, Yoshiaki KITA, and Katsuaki MATSUSHIMA
(University Library)

Supplementary Notes prepared for the Reprint

Thomas Albert GLOVER (1870-1945), better known as Tomisaburo KURABA, was born as a son of a Scottish trader Thomas Blake GLOVER and a Japanese woman Maki KAGA in Nagasaki. Although he was educated at Japanese schools as a Japanese, he studied biology in Medical College of Pennsylvania University in 1890-1892. He introduced steam trawlers to Japan for the first time from England in 1908.

The most famous among Tomisaburo's work is the atlas of "Fishes of Southern & Western Japan" consisting of 800 color plates which were painted by five artists residing in Nagasaki during the years from 1912 to 1936. All the specimens for the pictures were collected by Tomisaburo himself. The scientific name and Japanese vernacular name(s) together with the initial of the artist and work number have been written in pencil on each of the plates. Tomisaburo arranged the plates in systematic order and had them bound into 32 volumes (or groups as he named). This original set is now preserved at the Library of Nagasaki University.

An annotated edition of "Glover's Atlas" in five volumes was published by the Faculty of Fisheries, Nagasaki University in 1973-1976.

Tomisaburo's collection of literature on fishes and other marine animals, probably a part of it, was also donated to the University Library in 1953 via a route different from the Atlas. The collection consists of 231 pieces of books, journals, and reprints of papers, many of which have marginal notes written on pages by Tomisaburo, including accession dates.

The present article gives an annotated list of literature in the collection and explains how the collection has become the possession of the University Library. Inference was also made concerning how Tomisaburo could have identified and properly arranged the fishes in his Atlas.

第 8 章 長崎大学附属図書館の所有する「グラバー図書」

水産学部	千田哲資
附属図書館	下村一夫
	鈴木太郎
	喜多芳明
	松嶋勝顕

第 1 部 「グラバー図書」の由来と本報告の目的

「グラバー図譜」として広く知られている「Fishes of Southern & Western Japan 日本西部及南部魚類図譜」（以後「図譜」と略記）の製作者である倉場富三郎氏（1870-1945）がかつて所蔵された、魚類その他の海産動物に関する一連の文献が長崎大学附属図書館（中央館）にある。書籍・雑誌・論文別刷などよりなるこれらの文献は、現在「グラバー図書」として附属図書館の貴重図書室に保管されている。富三郎の没後、「図譜」は渋沢敬三氏に遺贈され、その後昭和25年に同氏より長崎大学水産学部に贈られた。しかし、当時は同学部が佐世保市に所在したため、「図譜」はあくまで長崎市内に留めたいとの渋沢氏の希望により、当分は附属図書館中央館（新制大学発足時には経済学部内に、昭和29年3月～31年2月には医学部にあった）が保管していた（当時の図書館職員相良候秀・矢野浅子氏による）。昭和36年に水産学部が長崎市に移転して、翌37年5月に「図譜」は同学部に移管された。同学部は「この図譜を広く世界に紹介し、多くの研究者に役立てたい」と、解説を加えて「グラバー図譜、全5巻」（1973-76）を刊行した。

グラバー図譜第一巻の「刊行の辞」の中で保田正人水産学部長（当時）は「倉場氏がこの査定に使用された文献 100余冊は、図譜と共に当学部に寄贈されていて、『グラバー図書』と呼ばれている」と述べている。当時、「グラバー図書」は附属図書館の水産学部分室が保管していた。しかし、これらの図書がいつ、いかなる経緯で同分室にもたらされたかは必ずしも明確ではなかった。「図譜」の直接の寄贈者である渋沢氏による「倉場氏魚譜が再び長崎に戻る経緯（昭和25年12月）」（グラバー図譜第一巻、p. 7-8）には、現品の引渡しが終わったとのみ記されていて、図書に関してはなんら触れられていない。

水産学部の図書館分室は昭和59年8月に廃止され、一切の図書は4冊の図書原簿とともに附属図書館に引き渡された。この原簿の1冊で、昭和26年5月28日（登録番号3514）から昭和34年3月30日（登録番号7564）までの分の後部に「グラバー図書」が記録されている。これらは本体の次頁繰越の連続で付された登録番号とは別に、1-231の登録番号があたえられている。いずれも受入年月日の部分は空白となっており、記帳年月日・記帳者ともに不明である。ただ、受入先には「渡辺藤雄」

と記してある。渡辺藤雄氏は昭和58年11月に88才で他界されているが、現在長崎市内にお住まいの次女渡辺信子さんやお孫さんの足立紀子さんのお話によって以下のことが明らかとなった。渡辺藤雄氏は昭和20年まで三菱重工長崎造船所の総務課に勤務し、定年退職後には嘱託として今魚町にあった同社の社員寮「清風寮」の管理人になられた。「グラバー図書」はこの清風寮にあった由で、死蔵するのも惜しいとのことから、この図書のことを水産学部のある先生に話したところ、その先生が下見にこられ、同学部への寄贈の話が纏まった。昭和28年春のある日、その先生が学生を連れて現物を引き取っていかれた。

上の「先生」がどなたであったかについては渡辺信子さんのご記憶になかった。本年（1996年）1月に、当時の水産学部教官で今もご健在の名誉教授、田村 修・入江春彦・銭谷武平・八坂 茂・道津喜衛の諸先生方に手紙や電話で問い合わせしてみたが、いずれも心当たりがないとのことのお答えであった。他方、「先生に連れられてきた学生」を探すべく、水産学部同窓会（鶴水会）名簿により、第1、2期の卒業生（昭和28年と29年の3月卒）全員に手紙を出した。6名の方からお返事を頂き、そのなかで「図譜」に関して今までに知られていなかった事実についての貴重な情報は得たものの、「グラバー図書」についてはご存じないとのことであった。ひとりの方から「当時、S短大の学生のYさんという方が田村先生のプライベートな助手をしていた。いつも学生服を着ていたから、その『学生』とはYさんである可能性が考えられる」との助言があった。本年2月に、S短大の同窓会長Tさんをお願いしてYさんを探して頂いたが「該当者なし」とのこと、結局、現在までのところ「先生」がどなたであったのか明らかにできなかった。

附属図書館の貴重図書室には左右各17段の引出しよりなる特製の書棚が備えてあり、全32集よりなる「図譜」は一冊ごとに別の引出しに収めてある。余分の2段の引出しには、グラバー図譜刊行に関係する文書やメモ、「図譜」についての新聞・雑誌の記事などが入れられている。それらの中に、昭和28年4月22日付け附属図書館の水産学部分館から丸善（株）あての文書のコピーが残されている。「寄贈図書受け入れについて必要であるので、別紙リストについて評価してほしい」との趣旨である。丸善（株）からは同月30日付けで回答があり、11枚よりなるリストの各文献について評価額が記されている。これらリストにある文献を前記図書原簿に記録されている「グラバー図書」と比較すると、記載の順序が多少前後する点を除いて全く一致する。また、図書原簿に記されている「價額」はリストにある評価そのままである。ただし、リストの最後にある「海豊丸漁獲奇蟻写真7枚（大. 3.）」は図書原簿では除かれている。

上記のことからみて、「グラバー図書」は、昭和25年に「図譜」が長崎大学に寄贈された時ではなく、昭和28年4月に、渡辺藤雄氏から当時佐世保にあった水産学部に寄贈されたものであると結論できる。

ここまでに「グラバー図書」と呼んできたが、実は図書原簿や評価のためのリストにそう明記されている訳ではない。しかし、多くのものに富三郎の蔵書印や認印が押し、同氏による受入れ年月日その他のメモが散見される。また渡辺信子さんの話からしても、これらはすべて富三郎が所蔵していたものと判断される。なお、図書原簿には 231 点が記載されているが、そのうち 9 点については所在が確認できなかった。他方、7 点の別刷もしくは小冊子は重複して 2 部ずつ存在する。また、同種の刊行物 8-10 冊ずつが綴じ紐で綴じてあって、それぞれ一括して登録番号が付されているものが 4 点ある。

この報告は次の目的をもっている。

1. 貴重なコレクションの保存と活用を計る。ハードカバーで製本されていたものも傷みがひどく、綴じ糸が切れている場合も多い。また、多くは薄い論文別刷りであるため散逸の恐れがある。そして正式には未登録であるので、たとえ「グラバー図書」の存在を知る者にとっても、具体的に個々の文献名を知る手段がない。そのため、ここに全文献を分野で分け、著者によって整理して掲げる。

2. 「図譜」作成に当たって直接利用された文献を明らかにする。包含する魚種の多さと、描かれた絵の質の高さは、それだけでもこの「図譜」を価値あらしめるに充分である。ただ、ここまでは、金と時間と熱意があれば、誰にとっても可能であろう。しかし、当時の最新の知識に基づいて種毎に査定し、図版に種名(学名)と和名を記入しているのは驚くべきことである。所有した文献とそれらに残されたメモを調べることにより、「図譜」作成に当たって富三郎がどのような文献を利用したかを知ろうと試みた。

3. 寄贈された図書以外に富三郎が所蔵した可能性のある文献を推測する。「グラバー図書」には対になっているものの一方が欠けているものもあるし、また「グラバー図書」のみでは「図譜」に収録されている軟体動物(イカ・タコ)や甲殻類(エビ・カニ)の査定は不可能である。

4. 果たされなかった富三郎の抱負を探る。富三郎所蔵の文献のうちで圧倒的に多いのは魚類に関するもので、十脚類(エビ・カニ類)の文献がこれに次ぐ。文献の一部には、それらを購入した年月日が記されていて、「図譜」完成の後にも文献の蒐集が続けられていたことを示している。しかも、文献リスト C 以下にみるように魚類以外の海産動物群に関する文献の蒐集に力点が移っている。これは彼の興味が広く海産動物全般にわたっていたことを示し、あの不幸な戦争がなければ、それらの図譜の作成をも試みたであろうと推測させる。

5. 内外の研究者との交友関係を知る資料とする。いくつかの文献の表紙には著者からの献呈の辞が記されている(図 1)。このことは富三郎とそれら著者との間に研究者同士としての交流があったことを示しており、今後の「倉場富三郎研究」の中で貴重な情報となり得ると考えられる。

第2部 「グラバー図書」リスト

以下、「グラバー図書」を列記し、蔵書印・書込みなどがある場合にはそれらを記録し、かつ適切と考えられるものについては若干の説明を加える。記述を短くするために以下の略記を用いる。

- 1) 扉または見返し遊びに図2 aのような蔵書印(2.5cm 四方)が押してある場合、単に「蔵書印」と記す。これに加えて、裏表紙の遊び紙、もしくは最終ページ裏側にも押してあるときは「蔵書印2ヶ所」などとする。
- 2) 扉または見返し遊びに図2 bのような倉場の認印(縦1.2cm)が押してある場合、単に「倉場印」と記す。ここに示した例では受入れの日付もみられる。
- 3) 扉または見返し遊びに図2 c, dのように、朱肉のスタンプ(2.9x1.5cm)を使用して受入れの日付が記されている場合、「1914年3月6日受」、「大正十三年3月28日受」などと記す。まれに別のスタンプ(3.1x1.2cm)が使われていて、こちらでは月日の下の文字は「受付・返答」になっている。
- 4) 扉または見返し遊びに、受入れの日付(稀に購入価格も)が鉛筆で書かれている場合、「31/12/37」などと記す。多くの場合、数字の上や下に長短の線や二重線が引いてあるが、煩雑を避けてそのことには触れない。
- 5) 扉または見返し遊びの隅にアルファベットや数字が書いてある場合、「A」、「12」などと記す。まれに数字は2ヶ所に記されている。これらが何を示すのか推測できないし、果して倉場氏が書いたものかどうか不明である。受入れ日との前後関係からみて受入れの順番でないことは確実である。
- 6) 水産学部の図書原簿で付されていた登録番号を、[125]などのように角括弧に置いて、文献記載事項の後に付記する。
- 7) 表紙や本文などに富三郎による書込みがある場合、「フカ」などのようにかき括弧に置いて示す。
- 8) 英文文献で、原文に魚の日本名がローマ字で示してある場合、○○種のうち○種に日本名と(引用符をつけずに)記す。

なお、生物の学名のうち属名と種名はイタリックにするのが習慣であるが、原稿作成の時間節約のため、立字体のままにした。欧文文献の表題中の生物名のうち、専門分野を異にする人にはわかりにくいと思われるものについては日本語名を添えるか、[口が大きく裂けた深海魚...]のように説明するかした。

A. 魚類に関する文献

Anon., n.d.: The Hawaiian fishes. Honolulu Rapid Transit & Land Co.,

1 pl. + 1 p. + 20 pls. + 1 p. 22.5x29.7cm. [202].

裏表紙の見返しに「1913年7月23日受」(下線部は判読困難)。

どこをみても刊行年が記されていないが、最後のページに、1907年8月8日に

商務省長官 O. S. Straus がホノルル商工会議の会合でおこなった講演の一部が載っている。

刊行者である Honolulu Rapid Transit & Land Co. が経営するホノルル水族館の宣伝のためのパンフレットと思われる。主体をなす20葉からなる魚の美しい水彩画は、Jordan, D.S. & B.W. Evermann (1905): The shore fishes of Hawaiian Islands, with a general account of the fish faunaの図版より抜粋したもので、A.H. Baldwin, C.B. Hudson, K. Moritaの3人の画家が描いている。

「図譜」の製作を始めた大正元年の次の年にはこの文献を入手していることから、富三郎が彼の画家たちにこれを手本のひとつとさせたものと考えられる。

Anon., n.d.: The Hawaiian fishes. The Island Curio Co., 12 pls. + 1 p. 12.5x17.8cm. [201].

最終ページの裏に「From P. J. Buckland. Sept., 1915」。

ホノルル水族館で売っていたと思われる小冊子である。12枚の絵のうち9枚は前掲のパンフレットと同じ絵の模写であるが、質的には劣る。また魚の名はすべてハワイ語のみが記されている。

Bean, B.A., 1904: A new pelican fish from the Pacific. Smithsonian Misc. Collect., 45 (1451):254, 1 pl. [口が大きく裂けた深海魚の一種 *Gastrostomus pacificus*]. 23.8x15.6cm. [105].

「101」。

Bean, B.A., 1905: Notes on an adult goblin shark (*Mitsukurina owstoni*) of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 28: 815-818. 23.7x15.0cm. [7].

表紙と扉に「フカ」、「6」。

Bean, B.A., 1905: The history of the whale shark (*Rhinodon typicus* Smith). Smithsonian Misc. Collect., 48:139-148, 3 pls. [ジンベエザメ]. [106].
今のところこの文献の所在は不明である。

Bean, B.A. & A.C. Weed, 1909: Notes on certain features of the life history of the Alaskan freshwater sculpin. Smithsonian Misc. Collect., 52 (1876):457-460. [淡水性のカジカ科魚類]. 23.8x15.6cm. [104].

「100」。

Bean, T.H. & B.A. Bean, 1896: Notes on fishes collected in Kamchatka and Japan by Leonard Stejneger and Nicolai A. Grebnitski, with a description of a new blenny. Proc. U. S. Nat. Mus., 19:381-392, 2 pls. 23.7x15.0cm. [8].

表紙表題の上に「ガチ」、二つの図版の学名の横にそれぞれ「モロランガチ」および「ガチ」。「倉場印」、「1914年3月6日受」、「7」。

Bean, T.H. & B.A. Bean, 1897: Description of a new blenny-like fish of the

genus *Opisthocentrus*, collected in Vulcano Bay, Port Mororan, Japan, by Nicolai A. Grebnitski. Proc. U. S. Nat. Mus., 20:463-464, 1 pl. 23.7x 15.0cm. [ガジ]. [87].

「82」。

Cockerell, T.D.A., 1910: The scales of the African characinid fishes.

Smithsonian Misc. Collect., 56 (1929):1-10, pls. 1-2. [コイ目の淡水魚チャラシン科魚類の鱗]. 23.8x15.6cm. [109].

「月日受」(日付は記入されていない)、「104」。

Cockerell, T.D.A., 1910: The scales of the mormyrid fishes with remarks on

Albula and *Elops*. Smithsonian Misc. Collect., 56 (1931):1-4. [アフリカ産淡水魚モルミルス科魚類の鱗]. 23.8x15.6cm. [110].

「月日受」、「105」。

「図譜」に収められている魚の絵のうち最も初期の作品はカサゴ・イトヨリ・オキトラギスで、いずれも1912年4月に描かれている。どの絵にも魚の全体図に添えて、1枚の鱗が精密に描いてある。この仕方はその後も一貫して採用されていて、硬骨魚については、鱗のない魚種を除き、ほとんどすべての図版に鱗のスケッチが載っている。Cockerell の論文が契機となって富三郎が画家に鱗を描かせたのか、もともと鱗に興味を持っていたためこれらの論文を求めたのか、これらの論文の受入れ日が記されていないのではっきりしない。

Couch, J., 1877: A history of the fishes of the British Islands. George Bell & Sons, London. Vol. 1, iv+245 pp., pls. 1-57. Vol. 2, iv+245 pp., pls. 58-120. Vol. 3, iv+208 pp., pls. 121-179. Vol. 4, iv+439 pp., pls. 180-248 + 4 pls. ハードカバー, 26.0x17.5cm. [182-185].

各巻に「蔵書印」。Vol. 1の扉の下方に「1877」。小口の切っていないページが少数ある。pl. 134 では覆いの薄い紙が画面に貼りついてしまっている。

これら各巻のどこにも発行年は書いてない。この本の初版は 1862-65年に毎年1巻ずつ刊行され、第2版が 1867-69年、第3版が1877年に出版された。富三郎の記入により、彼の所蔵したのは第3版であると判断される。

多くの魚については、まず分布や生息場所について述べ、その生態などについて漁夫や知人から聞いた話を紹介し、本に現れた物語や味・料理法などにも触れている。現代の魚学書なら最初に書かれる形態的特徴や鱗条数などは最後に記されている。

総計 252枚のカラー図版のうち50枚では、背景が描いてあり、しかもその多くは魚が陸上におかれている。例えば、pl. 12 Spinous sharkは海を背後に岸の岩に横たわり、近景に入江の一部らしきものがあり、空に2羽のカモメが舞っている。また、pl. 59 Miller's thumb (川や湖にすむカジカ科の魚)には川辺の草

むらに2尾の魚が描かれ(1尾は仰向けに)、背景に水車小屋がみられ、思わず吹き出す。19世紀初頭まで「西洋では魚類の写生図といえば陸地にゴロンと転がった姿を描いたものと、相場が決まっていた」(荒俣宏, 1994. 増補版図鑑の博物誌, 集英社)のだが、まだその習慣から完全には脱却していない。

Day, F. (compil.), 1889: One hundred and ninety-eight plates to illustrate Francis Day's work on the fishes of India. G. Norman & Son, London. 11 pp., pls. 1-195. ハードカバー, 33.1x25.5cm. [196].

「蔵書印」、「8」。

pl. 70 の3種の魚 (*Salarias quadricornis*, *S. unicolor*, *S. lineatus*) の図の横に○印。 pl. 175 4. *B. erythrodon* にアンダーライン。

この図鑑は元来 Day, F., 1875-78: *The fishes of India; being a natural history of the fishes known to inhabit the seas and fresh waters of India, Burma, and Ceylon.* xx+778 pp., 198 pls. として4部に分けて刊行されたものの図版の部にあたる。各図版には3-12種の魚が描かれており、全図版のうち少なくとも46図版はDay自身によるものである。他の図版はG.H. Fordら4名の画家が描いている。

富三郎が本文(Text)の部を所持したか否か明らかでない。表題にもかかわらず、「グラバー図書」中の本図鑑には195図版(198でなく)しか含まれていない。しかし、この食い違いは落丁によるものではない。アルファベット順に配列された各魚種がどの図版に載っているかを示す索引にも195図版までしかなく、また1971年にインドで刊行された復刻版でもそうである。

Eigenmann, C.H. 1902: Description of a new oceanic fish found off southern New England. *Bull. U.S. Fish. Comm.*, 21: 35-36. 25.4x17.7cm. [165].

「160」。

Eigenmann, C.H. 1903: New genera of South American fresh-water fishes, and new names for some old genera. *Smithsonian Misc. Collect.*, 45 (1431): 144-148. 23.8x15.6cm. [180].

「173」。

Evermann, B.W. & E.L. Goldsborough, 1902: A report on fishes collected in Mexico and Central America, with notes and descriptions of five new species. *Bull. U.S. Fish Comm.* 1901:137-159. 28.0x19.3cm. [90].

「85」。

Gilbert, C.H. and F. Cramer, 1896: Report on the fishes dredged in deep water near the Hawaiian Islands, with descriptions and figures of twenty-three new species. *Proc. U.S. Nat. Mus.*, 14:403-435, pls. 36-48. 23.8x15.0cm. [3].

- 「倉場印」、「1914年3月6日受」、「2」。
- Gilbert, C.H., 1905: The aquatic resources of the Hawaiian Islands.
Section II. The deep-sea fishes. Bull. U.S. Fish Comm. 1903, 23:575-713, pls. 66-101. ハードカバー, 27.7x19.5cm. [187].
「蔵書印2ヶ所」、「3」。p. 713 の下方に「713-577=136」と全体のページ数が計算してある。
本書は Jordan, D.S. & B.W. Evermann (1905) の同主題の Section I. The shore fishes of the Hawaiian Islands, with a general account of the fish fauna. Bull. U.S. Fish Comm. 1903, 23:1-574, 138 pls. と対をなすものである。この Section I. は寄贈図書の中には入っていない、富三郎が所有していたかどうか明らかでない。
- Gilbert, C.H. and C.V. Burke, 1912: New cyclogasterid fishes from Japan.
Proc. U.S. Nat. Mus., 42:351-380, pls. 41-48. 23.8x15.0cm. [4].
表紙に「クサウオ科」。「1914年3月6日受」、「3」。
- Gill, T., 1882: Bibliography of the fishes of the Pacific coast of the United States to the end of 1879. Bull. U.S. Nat. Mus., (11):73 pp. 23.0x14.8cm. [151].
「月日受」。
- Gill, T., 1905: The family of cyprinids and the carp as its type. Smithsonian Misc. Collect., 48 (1591):195-217, pls. 45-58. [コイ科魚類]. 23.7x15.6cm. [116].
「月日受」、「111」。
- Gill, T., 1907: Some noteworthy extra-European cyprinids. Smithsonian Misc. Collect., 48 (1662):297-346. [コイ科]. 23.7x15.6cm. [117].
「月日受」、「112」。
- Gill, T., 1907: The lumpsucker; its relationship and habits. Smithsonian Misc. Collect., 50 (1729):175-194. [ダンゴウオ]. 23.7x15.6cm. [118].
「月日受」、「113」。
- Gill, T., 1908: Parental care among fresh-water fishes. Smithsonian Rep. for 1905:403-531. 23.8x15.0cm. [113].
表紙表題の下に「Bass, Sunfish, Catfish, Stickleback.」。「月日受」、「108」。
- Gill, T., 1908: The millers-thumb and its habits. Smithsonian Misc. Collect., 52 (1801):101-116. [淡水産カジカ]. 23.7x15.6cm. [119].
「月日受」、「114」。
- Gill, T., 1908: The archer-fish and its feats. Smithsonian Misc. Collect.,

52 (1861):277-286. [テッポウウオ]. 23.7x15.6cm. [115].

「月日受」、「110」。

Goode, G.B., 1889: Six species of North American fresh-water fishes.

Smithsonian Inst. Nat. Hist. Illus., (672):1-12, pls. 1-6. 37.8x26.2 cm. [176].

「169」

原画は1849年に A. Sonrelが、Louis Aggasizと Spencer F. Baird の指示に従って描いたものである。元来、「北アメリカの淡水魚」というモノグラフに使う計画であったが、事情により実現しなかった。刊行の目的はアメリカの二人の傑出した科学者が計画した事業を記念するためである。

各図について D. S. Jordan が簡単な解説を加えている。

Goode, G.B. & T.H. Bean, 1895: Oceanic ichthyology, a treatise on the deep-sea and pelagic fishes of the world, based chiefly upon the collections made by the Steamers Blake, Albatross, and Fish Hawk in the northwestern Atlantic, with an atlas containing 417 figures.

U.S. Nat. Mus. Spec. Bull.:xxxv + 553 pp. ハードカバー, 34.5x25.0cm. [195].

「7」。

本文 (text) が一冊として製本されている。表題にある 417の図は 123葉の図版に載っていることになっている。これら図版は別冊として製本されたものと思われるが、寄贈された図書には含まれていなかった。

Harmer, S.F., et al., 1922: Fishes, ascidians, etc. The Cambridge Natural History, Vol. 7. MacMillan & Co., London. xvii+760 pp. ハードカバー, 23.0x15.7cm. [186].

「蔵書印」、「2」。

MacMillan社の表装本の背表紙にある表題は上記のとおりで、研究者の間でもそのように呼び慣らわされているが、扉には Hemichordata [半索動物] by Sir S.F. Harmer, etc., Ascidians and Amphioxus [ホヤ類とナメクジウオ] by W.A. Herdman, etc., Fishes (Exclusive of the Systematic Account of Teleostei) [魚類 (硬骨魚類の分類を除く)] by T.W. Bridge, etc., Fishes (Systematic Account of Teleostei) [魚類 (硬骨魚類の分類)] by G.A. Boulenger, etc. とある (上記中「etc.」はその著者の学位・称号・所属など)。

Herre, A.W.C.T., 1923: Notes on Philippine sharks, I. Philip. J. Sci., 23 (1):67-75, 1 pl. 26.8x19.4cm. [123].

「118」。

Herre, A.W.C.T., 1923: A review of the eels of the Philippine Archipelago.

- Philip. J. Sci., 23 (2):123-236, pls. 1-11. 26.8x19.3cm. [124].
「119」。
- Herre, A.W.C.T., 1924: Distribution of the true fresh-water fishes in the Philippines I. The Philippine Cyprinidae. Philip. J. Sci., 24 (3):249-306, 2 pls. [コイ科魚類]. 26.8x19.6cm. [125].
「120」。
- Herre, A.W.C.T., 1924: Distribution of the true fresh-water fishes in the Philippines II. The Philippine Labyrinthici, Claridae, and Siluridae. Philip. J. Sci., 24 (6):683-707, 2 pls. [迷器類=タイワンドジョウ、ヒレナマズ科、ナマズ科]. 26.9x19.3cm. [126].
「121」。
- Herre, A.W.C.T., 1924: Poisonous and worthless fishes: An account of the Philippine plectognaths. Philip. J. Sci., 25 (4):415-511, 2 pls. [癒顎類=フグ、カワハギ類]. 27.0x19.5cm. [127].
「122」。
- Herre, A.W.C.T., 1925: Notes on Philippine sharks, II. Philip. J. Sci., 26 (1):113-129, 1 pl. 26.6x19.5cm. [181].
「74」。
- Herre, A.W.C.T., 1925: A new species of cardinal fish from the Philippines. Philip. J. Sci., 26 (3):341-343, 1 pl. [テンジクダイ科の魚]. 26.6x19.5cm. [128].
「123」。
- Herre, A.W.C.T., 1925: A supplement to poisonous and worthless fishes. Philip. J. Sci., 27 (2):167-168. 26.6x19.4cm. [129].
「124」。
- Herre, A.W.C.T., 1925: A new Philippine sea robin, family Peristediidae. Philip. J. Sci., 27 (3):291-294, 1 pl. [キホウボウ科]. 26.6x19.3cm. [130].
「125」。
- Herre, A.W.C.T., 1925: Two strange new fishes from Luzon. Philip. J. Sci., 27 (4):507-513, 2 pls. 27.0x19.3cm. [131].
「126」。
- pl. 1 の余白に細長い魚の体と尾の輪郭らしきもののいたずら書き。
ルソン島の山地の小川から採集したトウゴロウメダカ科の新属 (Gulaphallus = 喉+陰莖) の2新種についての記載である。本科魚類は東南アジアの主として汽水域に分布する小型の魚で、雄の交接器が喉の下側にある点で特異のグループ

を形成している。

Herre, A.W.C.T., 1926: Two new fishes from Lake Lanao. *Philip. J. Sci.*, 29 (4):499-503, 2 pls. 26.8x19.5cm. [132].

「127」。

Herre, A.W.C.T., 1926: Four rare Philippine fishes. *Philip. J. Sci.*, 31 (2):217-227, 1 pl. 26.8x19.3cm. [133].

「128」。

Herre, A.W.C.T., 1926: A summary of the Philippine catfishes, order Nematognathi. *Philip. J. Sci.*, 31 (3):385-413, 1 pl. 26.8x19.5cm. [171].

「164」。

Herre, A.W.C.T., 1926: Four new Philippine fishes. *Philip. J. Sci.*, 31 (4):533-543, 3 pls. 26.8x19.5cm. [172].

「165」。

Herre, A.W.C.T., 1927: A new genus and three new species of Philippine fishes. *Philip. J. Sci.*, 32 (3):413-419, 2 pls. 26.8x19.5cm. [134].

「129」。

Herre, A.W.C.T. & H.R. Montalban, 1927: The Philippine species of Kuhlidae. *Philip. J. Sci.*, 33 (2):199-207, 1 pl. [ユゴイ科]. 26.8x19.5cm.

[137].

「132」。

Herre, A.W.C.T. & H.R. Montalban, 1927: Philippine sparoid and rudder fishes. *Philip. J. Sci.*, 33 (4):397-441, 9 pls. [タイ型魚類およびイスズミ]. 26.8x19.5cm. [138].

「133」。

Herre, A.W.C.T., 1927: The Philippine butterfly fishes and their allies. *Philip. J. Sci.*, 34 (1):1-113, 24 pls. 26.8x19.5cm. [135].

表紙に「To Mr. T.A. Glover with the sincere regards of Albert W. Herre」との献呈辞がある。「130」。

Herre はマニラの科学局水産部の長官であり、著名な魚類学者でもあった。

Herre, A.W.C.T., 1927: *Hynnismomus*, a new Philippine pampano. *Philip. J. Sci.*, 34 (2):235-237, 1 pl. [ウマヅラアジ]. 26.8x19.5cm. [139].

「134」。

Jenkins, O.P., 1900: Descriptions of new species of fishes from the Hawaiian Islands, belonging to the families of Labridae and Scaridae. *Bull. U.S. Fish Comm.*, 1899:45-65. [ベラ科・ブダイ科]. 28.0x19.6cm. [96].

「91」。

Jenkins, O.P., 1901: Descriptions of fifteen new species of fishes from the Hawaiian Islands. Bull. U.S. Fish Comm., 1899:387-404. 27.8x19.4 cm. [97].

「92」。

pp. 387, 388 に新種として図示・記載されている *Sphyraena helleri* と *Sphyraena snodgrassi* の二つの図の横に「カマス」。

Jenkins, O.P., 1903: Report on collections of fishes made in the Hawaiian Islands, with descriptions of new species. Bull. U.S. Fish Comm., 1902:417-511, 2 pls. 27.9x19.5cm. [95].

表紙の表題のうち「in the Hawaiian Islands」に赤鉛筆で下線、「90」。

Chromis elaphrus [スズメダイ属の魚] が新種として記載・図示されている p. 457に、なにかの裏紙を利用した紙片 (15.0x3.5cm) に「*chromis elaphrus* Jenkins」と記したメモが挟んである。

Jordan, D.S. & B.W. Evermann, 1896-1898: The fishes of North and Middle America: A descriptive catalogue of the species of fish-like vertebrates found in the waters of North America, north of the Isthmus of Panama. Bull. U.S. Nat. Mus., 47. pt. 1: v-lx, 1-1240. pt. 2: iii-xxx, 1241-2183. pt. 3: v-xxiv, 2183a-3136. ハードカバー, 23.4x15.3cm. [188, 189, 190].

各巻に「蔵書印」。pt. 1 に「4」、「4 vols. 5 capt. #25-」。

本書 pt. 1-3は本文 (text) 篇で、これらに続き 1900 に pt. 4: iii-ci, 3137-3313, 392 pls. が刊行されている。寄贈図書に含まれていた筈で、図書原簿で [191]の番号が付されているが、現物は見当たらない。

Jordan, D.S. & R.C. McGregor, 1899: List of fishes collected at the Revil-lagigedo Archipelago and neighboring islands. U. S. Fish Comm. Rep. 1898: 271-284, pls. 4-7. 23.0x14.7cm. [98].

「93」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1900: A list of fishes collected in Japan by Keinosuke Otaki, and by the United States Steamer Albatross, with descriptions of fourteen new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 23:335-380, pls. 9-20. 23.7x15.0cm. [39].

表紙に「倉場印」、「36」、右下に「3」、扉に「1914年3月6日受」。

表紙表題の上に「カヂカ、ヒゲ、ウゴイ、アナゴ、オヤニラミ、グチ、メバル、カサゴ、コチ、ハゼ」。

pls. 10-20にそれぞれ「ウゴイ」、「アナゴ」、「オヤニラミ (ハタ)」、「グチ」、「メバル」、「カサゴ」、「カレゴ」、「コチ」、[ネズミゴチ]、

「ハゼ」、「カヂカ」[実はイソギンポ]、「ヒゲ」。

大滝圭之助はスタンフォード大学を卒業し、初め水産局助手を勤めたが、この論文が書かれた頃は陸軍大学の教授であった。水産局時代(1896年頃)から魚類についての論文を発表しているが、1903年から1911年にかけて、藤田経信・日暮忠と共著で「日本魚類図説、第1-5集」(裳華房)を著した。

アイナメの学名 *Hexagrammos otakii* Jordan & Starks およびユカタハゼの学名 *Hazeus otakii* Jordan & Snyderはともに大滝に捧げられたものである。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the lancelets, hag-fishes, and lampreys of Japan, with a description of two new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 23:725-734, 1 pl. 23.7x15.0cm. [40].

表紙に「ヤツメウナギ」、「1914年3月 日受付」、「37」、右下に「4」。扉に「1914年3月6日受」。

4種のうち2種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: List of fishes collected in 1883 and 1885 by Pierre Louis Jouy and preserved in the United States National Museum, with descriptions of six new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 23:739-769, 8 pls. 23.7x15.0cm. [41].

表紙に「倉場印」、「38」、右下に「6」、扉に「1914年3月6日受」。

48科 769種のリストで、6つの新種記載がある。14の科の学名(科名)の上に「コヒ科」、「ウナギ科」などと書込みがある。他方、アジ科やタイ科などにはなにも記していない。どういう科名について和名を書き込んだのか推測できない。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the apodal fishes or eels of Japan, with descriptions of nineteen new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 23:837-890. 23.7x15.0cm. [42].

表紙に「ウナギ、ハモ、アナゴ」、「倉場印」、「39」、右下に「8」。扉に「1914年3月6日受」。

50種のうち10種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the cardinal fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 23:891-913, 2 pls. [テンジクダイ科魚類]. 23.7x15.0cm. [43].

表紙に「イシモチ、メバル テンヂクダヒ科」、「倉場印」、「40」、右下に「9」。扉に「1914年3月6日受」。

p. 891 「Family APOGONIDAE」とある上に「テンヂクダヒ科」。

17種の魚が記載されており、そのうち5種については日本名がローマ字で記してある。ただし、うまく聞き取れなかったためか、イシモチは Ichimochi、ネンブツダイは Nebutudai になっている。他の Jordan らの日本産魚類に関する報告

に収められている魚の日本名でもそのような例（綴り誤り）が散見される。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the hypostomide and lophobranchiate fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:1-20, 12 pls. [下口類および総鰓類]. 23.7 x15.0cm. [44].

表紙に「ヨウジウヲ、タツノオトシゴ」、「倉場印」、「A」、「41」、右下に「7」。「1914年3月6日受」。

以下のように書込みがある。p. 1, Family 1. PEGASIDAEの上に「ウミテング科」、p. 3, Family 2. SOLENOSTOMIDAEの上に「カミソリウヲ科」、2. SOLENOSTOMUSの上に「カミソリウヲ」、p. 4, 3. SOLENOSTOMUS PARADOSUS (Pallas)の上に「フウライウヲ」、p. 5, Family 3. SYNGNATHIDAEの上に「ヤウジウヲ科」。

19種のうち7種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the gobioid fishes of Japan, with descriptions of twenty-one new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:33-132. 23.7x15.0cm. [45].

表紙に「ハゼ」、「倉場印」、「A」、「42」、右下に「10」。「1914年3月6日受」。

57種のうち3種に日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1901: A review of the atherine fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:198-206. [トウゴロウイワシ科]. 23.7x15.0cm. [58].

表紙に「イワシ」、「倉場印」、「55」、右下に「5」。扉に「1914年3月6日受」。

5種のうち1種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1901: A review of the gymnodont fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:229-264. 23.7x15.0cm. [37].

表紙に「フグ」、「倉場印」、「A」、「34」、右下に「11」。「1914年3月6日受」。

27種のうち12種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: A review of the discobolous fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:343-351. 23.7x15.0cm. [38].

表紙に「ダンゴウヲ (クサウヲ科), アバチヤン」、「倉場印」、「A」、「35」、右下に「12」。扉に「1914年3月6日受」。

p. 343の Family I. CYCLOPTERIDAEの上に「ダンゴウヲ科」、p. 347の Family II. LIPARIDIDAEの上に「クサウヲ科」。

Jordan, D.S. & M. Sindo, 1902: A review of the Japanese species of surf-

fishes or Embiotocidae. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:353-359. [ウミタナゴ科]. 23.7x15.0cm. [77].

表紙に「タナゴ」、「倉場印」、「A」、「72」、右下に「13」。扉に「1914年3月6日受」。

Jordan, D.S. & M. Sindo, 1902: A review of the pediculate fishes or anglers of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:361-381. [アンコウ, ハナオコゼなど]. 23.7x15.0cm. [76].

表紙に「倉場印」、「71」、右下に「14」、表題の上に「アンコウ」。扉に「1914年3月6日受」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: A review of the trachinoid fishes and their supposed allies found in the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:461-497. 23.7x15.0cm. [34].

表紙表題の上に「ハゼ, キス, ミシマオコゼ, ハタハタ科, アゴアマダヒ科」、「e」、「31」。扉に「1914年3月6日受」、「7」。

p. 480の Family IV. CHAMPSODONTIDAEの上に「ワニギス科」、p. 482の Family V. TRICHODONTIDAEの上に「スズキ群ハタハタ科」、p. 485の Family VI. SILLAGINIDAEの上に「キス科」、p. 490の Family VIII. PSEUDOCHROMIDAEの上に「メギス科」、p. 490の Family IX. OPISTHOGNATHIDAEの上に「アゴアマダヒ科」、p. 492の 15. GNATHYPOPS Gillの上に「アゴアマダヒ属」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: A review of the salmonoid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:567-593. 23.7x15.0cm. [35].

表紙表題の上に「マス, アユ, シヤケ」、「e」、「32」。扉に「1914年3月6日受」、「1」。

16種のうち12種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: A review of the labroid fishes and related forms found in the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 24:595-662. 23.7x15.0cm. [36].

表紙に「ベラ」、「e」、「33」。扉に「1914年3月6日受」、「9」。

45種のうち13種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the oplegnathoid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:75-78. [イシダイ科]. 23.7x15.0cm. [82].

「77」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: Descriptions of two new species of squaloid sharks from Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:79-81. [ツノザメ科]. 23.7x15.0cm. [83].

「78」。

p. 79 下部欄外に Proceedings U.S. National Museum, Vol. XXIV—No. 1279 と印刷されているものの下線部を「XXV」と訂正してある。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the trigger-fishes, file-fishes, and trunk-fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:251-286. [カワハギ類]. 23.7x15.0cm. [72].

表紙に「カワムキ」、「1914年3月 日受付」、「e」、「68」。扉に「1914年3月6日受」、「6」。

24種のうち13種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the cling-fishes (Gobiesocidae) of the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:413-416. [ウバウオ科]. 23.7x15.0cm. [85].

「80」。

p. 413に鰓の数について gills 3 or 2 1/2 とある下線部が「3 1/2」と訂正してある。ただし、この訂正は富三郎によるものでなく、水産学部分館に保管されていた時代のものである可能性がある。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1902: A review of the blennoid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:441-504. 23.7x15.0cm. [33].

表紙に「ギンポ」、「e」、「30」。扉に「1914年3月6日受」、「8」。

p. 452に Body shor and deep; とある下線部を「short」と訂正。

44種のうち6種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the Chaetodontidae and related families of fishes found in the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:513-563. [チョウチョウウオ科]. 23.7x15.0cm. [71].

表紙に「ヒサ、ヒシダイ、カゴマトダヒ、キンチャクウヲ」、「e」、「67」。

扉に「1914年3月6日受」、「5」。

27種のうち14種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: Notes on little-known Japanese fishes with description of a new species of Aboma. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:573-576. [アシシロハゼ]. 23.7x15.0cm. [86].

「81」。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the ophidioid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:743-766. [アシロ垂目]. 23.7 x15.0cm. [68].

表紙に「ナマズ、イタチウヲ」、「e」、「64」。扉に「ナマズ、イタチウヲ」、「1914年3月6日受」、「3」。

14種のうち3種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the dragonets (Callionymidae) and related fishes of the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 25:939-959. [ネズッコ科]. 23.7x15.0cm. [69].

表紙に「ヌメリゴチ」、「e」、「65」。扉にインクで「コチ」、鉛筆で「ヨメコチ、ネズミコチ、デグリコチ」、「1914年3月6日受」、「14」。

本別刷では表紙、扉ともに出版年が1903と印刷されている。以下に続く2つの報告より前に出版されている筈だし、Dean, B (1916)の“A Bibliography of Fishes”でもこの論文の出版は1902年とされている。

12種のうち3種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1902: A review of the berycoid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 26:1-21. 23.7x15.0cm. [70].

表紙に「マツカサ」、「e」、「66」。扉に「キンメダイ、ヒウチダイ、キンダイ=ニシキダイ=イツトダイ、マツカサウヲ=マツカサゴ」、「1914年3月6日受」、「2」。

p. 7にHIUNCHIDAIとある下線部を「HIUCHIDAI」と訂正。

11種のうち5種に日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1902: A review of the hemibranchiate fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 26:57-73. [半鰓類]. 23.7x15.0cm. [57].

表紙に「トケウヲ、ヤカラ、サキフエ」、「e」、「54」。扉に「トゲウヲ、ヤガラ、サギフエ」、「1914年3月6日受」、「4」。

10種のうち4種に日本名。

Jordan, D.S. & H.W. Fowler, 1903: A review of the elasmobranchiate fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 26:593-674. 2 pls. [板鰓類]. 23.7x15.0cm. [64].

表紙に「フカ、アカエー」、「e」、「60」。扉に「フカ、アカエー、ギンザメ」、「1914年3月6日受」、「16」。

45種のうち29種に日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1903: Description of a new species of sculpin from Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 26:689-690. [カジカ]. 23.7x15.0cm. [78].

「73」。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1903: A review of the synentognathous fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 26:525-544. [合内顎類=ダツ類]. 23.7x15.0cm. [178].

表紙表題の上に「トビウヲ、サンマ、サヨリ、トビウヲ、」、「171」。扉表題の上に「サンマ、サヨリ、トビウヲ」、「1914年3月6日受」、「12」。

12種のうち6種に日本名。

Jordan, D. S., 1903: Supplementary note on *Bleekeria mitsukurii*, and on certain Japanese fishes. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:693-696. [シワイカナゴ]. 23.7x15.0cm. [80].

「28」、「75」。

Jordan, D. S. & H. W. Fowler, 1903: A review of the Cepolidae or band-fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:699-702. [アカタチ科]. 23.7x15.0cm. [81].

「76」

Jordan, D. S. & H. W. Fowler, 1903: A review of the Cobitidae, or loaches, of the rivers of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:765-774. 23.7x15.0cm. [65].

表紙に「ドジョヨ」、「61」。扉に「ドジャウ」、「1914年3月6日受」、「10」。

6種のうち3種に日本名。

Jordan, D. S. & H. W. Fowler, 1903: A review of the cyprinoid fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:811-862. [コイ科]. 23.7x15.0cm. [66].

表紙に「ウグイ、アカハラ、フナ」、「e」、「62」。扉に「ヒゴイ、ニゴイ、カマスカ、ムギツク、タナゴ、タビラ、ゼゼラ、ハヤ、クキ、カワムツ、ワダカ」、「1914年3月6日受」、「15」。

34種のうち19種に日本名。

Jordan, D. S. & H. W. Fowler, 1903: A review of the siluroid fishes or cat-fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:897-911. 23.7x15.0cm. [67].

表紙に「ナマズ、ギギ」、「e」、「63」。扉に「ナマズ、ギギ」、「1914年3月6日受」、「11」。

8種のうち3種に日本名。

Jordan, D. S. & B. W. Evermann, 1903: Descriptions of new genera and species of fishes from the Hawaiian Islands. Bull. U. S. Fish Comm., 1902: 161-208. 27.7x19.3cm. [164].

「159?」。

Jordan, D. S. & B. W. Evermann, 1903: Descriptions of a new genus and two new species of fishes from the Hawaiian Islands. Bull. U. S. Fish Comm., 1902:209. 27.4x19.3cm. [91].

「86」。

Jordan, D. S. & E. C. Starks, 1903: A review of the fishes of Japan belonging to the family Hexagrammidae. Proc. U. S. Nat. Mus., 26:1003-1013. [アイナメ科]. 23.7x15.0cm. [55].

表紙表題の上に「アブラメ」、「e」、「52」。扉に「1914年3月6日受」、「13」、表題の上に「クヂメ、アブラコ（アブラメ）」。

5種のうち3種に日本名。

Jordan, D. S. & E. C. Starks, 1904: A review of the scorpaenoid fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:91-175. [フサカサゴ科]. 23.7x15.0cm. [56].

表紙に「B」、「53」、表題の上に「メバル、カサゴ（アラカブ）」。扉に「1914年3月6日受」、表題の上にインクで「クヂメ、アブラコ（アブラメ）、ソイ、カサゴ、メバル、オコゼ」、鉛筆で「ヤマノカミ」、表題の下に「アコ、カサゴ、オコゼ」。

52種のうち22種に日本名。

Jordan, D. S. & J. O. Snyder, 1904: On the species of white chimaera from Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:223-226. 23.7x15.0cm. [32].

表紙に「ギンザメ」、「D」、「29」。扉に「1914年3月6日受」。

Jordan, D. S. & E. C. Starks, 1904: A review of the Cottidae or sculpins found in the waters of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:231-335. [カジカ科]. 23.7x15.0cm. [53].

表紙に「カヂカ、カナガシラ、アナハゼ」、「B」、「50」。扉に「カヂカ、アナハゼ、カナカシラ?-サチコ」「1914年3月6日受」。

Jordan, D. S. & E. C. Starks, 1904: A review of the Japanese fishes of the family of Agonidae. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:575-599. [トクビレ科]. 23.7x15.0cm. [54].

表紙に「カナガシラ」、「B」、「51」。扉に「トクビレ (Kanagashira? 5/8 角)」、「1914年3月6日受」。

Jordan, D. S. & J. O. Snyder, 1904: Notes on collections of fishes from Oahu Island and Laysan Island, Hawaii, with descriptions of four new species. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:939-948. 23.7x15.0cm. [29].

「1914年3月6日受」、「B」、「26」。

Jordan, D. S. & E. C. Starks, 1904: Schmidtina, a genus of Japanese sculpins. Proc. U. S. Nat. Mus., 27:961. [カジカ類]. 23.7x15.0cm. [84].

「79」。

Jordan, D. S. & J. O. Snyder, 1904: Description of a new species of fish

(*Apogon evermanni*) from the Hawaiian Islands, with notes on other species. Proc. U.S. Nat. Mus., 28:123-126. [テンジクダイ属]. 23.7x15.0cm. [30].

「1914年3月6日受」、「B」、「27」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1904: On a collection of fishes made by Mr. Alan Owston in the deep waters of Japan. Smithsonian Misc. Collect., 45 (1447):230-240, 6 pls. 23.7x15.6cm. [114].

「月日受」、「109」。

12種のうち7種に日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1904: Description of a new cyprinoid fish, *Hemibarbus joiteni*, from the Pei Ho, Tientsin, China. Smithsonian Misc. Collect., 45 (1448):241-242, 1 pl. [ツチフキ属]. 23.7x15.6cm. [120].

「月日受」、「115」。

Jordan, D.S., 1904: Notes on fishes collected in the Tortugas Archipelago. Bull. U.S. Fish Comm., 1902:539-544, 2 pls. 27.8x19.3cm. [92].

「87」。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1904: List of fishes dredged by the Steamer Albatross off the coast of Japan in the summer of 1900, with descriptions of new species and a review of the Japanese Macrouridae. Bull. U.S. Fish Comm., 1902:577-628, pls. 1-8. [日本沿岸の魚種のリストとソコダラ科の再検討]. 27.6x19.3cm. [94].

「89」。

Jordan, D.S., 1905: Notes on the salmon and trout of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 28:365-366. 23.7x15.0cm. [79].

「1914年3月6日受」、「74」。

Jordan, D.S. & A. Seale, 1905: List of fishes collected by Dr. Bashfort Dean on the Island of Negros, Philippines. Proc. U.S. Nat. Mus., 28:769-803. 24.6x15.6cm. [62].

「58」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1905: A list of fishes collected in Tahiti by Mr. Henry P. Bowle. Proc. U.S. Nat. Mus., 29:353-357. 24.6x15.9cm. [26].

「23」。

Jordan, D.S. & J.C. Thompson, 1905: The fish fauna of the Tortugas Archipelago. Bull. Bur. Fish., 29:229-256. Washington. 28.1x19.4cm.

[150].

「145」。

Jordan, D.S. & A. Seale, 1906: Descriptions of six new species of fishes from Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 30:143-148. 23.7x15.0cm. [61].

表紙に「メダカ, タナゴ, オキベニサシ, イシモチ, ハゼ, コチ」、 「57」。扉にインクで「メダカーハゼーコチ」、鉛筆で「タナゴ, オキベニサシ, イシモチ」、 「1914年3月6日受」。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1906: A synopsis of the sturgeons (Acipenseridae) of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 30:397-398. 23.7x15.0cm. [31].

表紙に「チヨザメ」、 「28」。扉に「Sturgeon, チヨザメ」、 「1914年3月6日受」。

2種の1種に日本名。

Jordan, D.S., 1906: A review of the sand lances or Ammodytidae of the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 30:715-719. [イカナゴ科]. 23.7x15.0cm. [22].

表題下に「カマス?サヨリ?」。 「1914年3月6日受」、 「B」、 「19」。

Jordan, D.S. & R.C. McGregor, 1906: Description of a new species of threadfin (family Polynemidae) from Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 30:813-815. [ツバメコノシロ科]. 23.7x15.0cm. [63].

表紙に「アゴナシ」、 「B」、 「59」。扉に「アゴナシ」、 「1914年3月6日受」。

日本名もローマ字で記してある。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1906: The giant bass of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 30:841-845. 23.7x15.0cm. [28].

表紙表題下に「イシナギ」、 「B」、 「25」、 右下に「13」。扉に「イシナギ-アブラボーズ」、 「1914年3月6日受」。

2種のうち1種に日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1906: A review of the flounders and soles of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 31:161-246. 23.7x15.0cm. [52].

表紙表題下に「カレー」、 「B」、 「49」、 右下に「10」。扉に「ヒラメ-カレイ」、 「1914年3月6日受」。

60種のうち14種に日本名。

Jordan, D.S. & J.O. Snyder, 1906: A review of the Poeciliidae or killifishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 31:287-290. 23.7x15.0cm. [27].

表題下に「メダカ」。 「1914年3月6日受」、 「B」、 「24」、 「17」。

2種ともに日本名。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1906: Notes on a collection of fishes from Port Arthur, Manchuria, obtained by James Francis Abbot. Proc. U.S. Nat. Mus., 31:515-526. 23.7x15.0cm. [51].

表紙表題下に「タヒ, ハゼ, ズナシ, シタベラ」。「1914年3月6日受」、「B」、「48」、「27」。

Jordan, D.S. & A.C. Herre, 1906: A review of the herring-like fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 31:287-290. 23.7x15.0cm. [25].

表紙表題下に「ニシン, コノシロ」。「1914年3月6日受」、「B」、「22」、「9」。

20種のうち11種に日本名。

Jordan, D.S., 1907: A review of the fishes of the family Histiopteridae, found in Japan; with a note on Tephritis Gunther. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:235-239. 23.7x15.0cm. [19].

表題下に「マトダイ, ツボダイ」。「1914年3月6日受」、「D」、「16」。記載されている3種すべてに日本名。

Jordan, D.S., 1907: A review of the fishes of the family Gerridae found in the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:245-248. 23.7x15.0cm. [20].

表紙表題下に「シジユガラ」、「D」、「17」。扉に「シジユガラ, クロサギ, アマギ」。

Jordan, D.S. & E.C. Starks, 1907: List of fishes recorded from Okinawa or the Riu Kiu Islands of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:491-504. 24.6x15.6cm, [59]; 23.7x15.0cm, [60].

同じものが2部あり、大きさが違う。[60]の表紙に「メジナ」、「D」、扉に「?」、「1914年3月6日受」。「56」。

Jordan, D.S. & A.C. Herre, 1907: A review of the lizard-fishes or Synodontidae of the waters of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:513-524. 23.7x15.0cm. [24].

表紙に「エソ」、「D」、「21」。扉に「オキエソ」、「1914年3月6日受」5種すべてに日本名。

Jordan, D.S. & A.C. Herre, 1907: A review of the cirrhitoid fishes of Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 33:157-167. 23.7x15.0cm. [23].

表紙に「タカノハダイ, イソフナ」、「D」、「20」。扉に「イソフナ, オキゴンベイ, タカノハ」、「1914年3月6日受」。

5種のうち3種に日本名。

Jordan, D. S. & R. E. Richardson, 1907: On a collection of fishes from Echigo, Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 33:263-266. 23.7x 15.0cm. [16].
扉にインクで「ドヂヨ」、鉛筆で「ヒゲコチ, アユ? トクビレ科, ハゼ科」。
1914年3月6日受」、「D」、「14」。

Jordan, D. S. & R. E. Richardson, 1908: A review of the flat-heads, gurnards, and other mail-cheeked fishes of the waters of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 33:629-670. 23.7x 15.0cm. [14], [15].

同じものが2部ある。[14]では表紙に「コチ, カナカシラ」、「D」、「13」。
扉に「コチ, カナカシラ, セミホウボウ」、「1914年3月6日受」。

[15]では表紙に「Duplicate」、「13」。扉に「倉場印」、「1914年3月6日受」。

24種のうち11種に日本名。

Jordan, D. S. & M. C. Dickerson, 1908: Description of a new species of half-beak (*Hemiramphus mioprurus*) from Nagasaki, Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 34:111-112. [サヨリ属]. 23.7x 15.0cm, [73]; 24.5x15.5cm, [74].

同じものが2部あり、大きさが違う。[74]の表紙に「Duplicate」、「D」、「69」。扉に「倉場印」、「1914年3月6日受」。

Jordan, D. S. & M. C. Dickerson, 1908: On a collection of fishes from Fiji, with notes on certain Hawaiian fishes. Proc. U. S. Nat. Mus., 34:603-617. 23.7x 15.0cm. [75].

「1914年3月6日受」、「D」、「70」。

Jordan, D. S. & R. E. Richardson, 1910: A review of the Serranidae or sea bass of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 37:421-474. 23.7x 15.0cm. [17], [18].

同じものが2部ある。[17]では表紙に「(アラ, アゴ, ワセ)」、「15」。[18]では表紙にインクで「メバル, アラ, アコ, キンワセ」、鉛筆で「(ハタ科)」、「D」、「15」。扉に「1914年3月6日受」。

29種のうち16種に日本名。

Jordan, D. S. & W. F. Thompson, 1911: A review of the sciaenoid fishes of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 39:241-261. 23.7x 15.0cm. [13].

表紙に「グチ, ニベ, (ニベ科)」、「C」、「12」。「1914年3月6日受」。

8種のうち2種に日本名。

Jordan, D. S. & W. F. Thompson, 1911: A review of the fishes of the families Lobotidae and Lutianidae, found in the waters of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 39:453-471. 23.7x15.0cm. [12].

表紙にインクで「イサキ, ムツ」、鉛筆で「タイ, マツダイ科, フェダイ科」、

「C」、「11」。「1914年3月6日受」。

13種のうち5種に日本名。

Jordan, D.S. & W.F. Thompson, 1912: A review of the Sparidae and related families of perch-like fishes found in the waters of Japan. Proc. U. S. Nat. Mus., 41:521-601. 23.7x 15.0cm. [11].

表紙にインクで「タイ、イトヨリ、イサキ」、鉛筆で「ノジナ、オーメダイ、タイ科、及び其ノ関係科」、「C」、「10」。「1914年3月6日受」。

p. 569, Fig. 7. *Gymnocranius griseus*, p. 582, Fig. 9. *Sparus aries*および p. 584, Fig. 10. *Sparus latus*の図の下に、それぞれ「オーメダイ」、「ヘダイ」、「クロダイ」。

Jordan, D.S. & J.C. Metz, 1912: Description of two new species of fishes from Honolulu Hawaii. Proc. U.S. Nat. Mus., 42:525-527, 1 pl. 23.7x 15.0cm. [179].

「172」、「1914年3月6日受」。

p. 891 「Family APOGONIDAE」とある上に「テンヂクダヒ科」。

Jordan, D.S., 1913: Description of *Anguilla manabei*, a new eel from Japan. Proc. U.S. Nat. Mus., 44:359-360, 1 pl. 23.7x15.0cm. [21].

表紙表題の EEL に下線、「ウナギ」、「C」、「18」。「1914年3月6日受」。

Jordan, D.S., S. Tanaka & B.W. Evermann, 1913: A catalogue of fishes of Japan. J. Coll. Sci. Tokyo Imp. Univ., 33, Artic. 1:1-497. ハードカバー, 26.1x19.6cm. [192].

扉に「蔵書印」、「5」。扉の見返しに「倉場印」、「1914年3月18日受」。

「グラバー図書」の中でもっとも書込みが多く、「図譜」作成の過程でおおいに利用された文献であると思われる。このことについては、第3部で詳しく述べる。

Jordan博士 (David Starr Jordan, 1851-1931) はインディアナ大学、スタンフォード大学などの総長を歴任したアメリカ人の動物学者である。若い頃アガシー教授 (J. Louis R. Agassiz) に教えを受けて魚類研究に専念し、2,500に及ぶ種を決定した。1896-1922 (明治29-大正11) 年に数度にわたって来日し、日本産魚類について110篇にのぼる論文を書いた。本論文の共著者でもある田中茂穂をはじめ、石川千代松・岸上鎌吉・脇谷洋次郎など多くの魚類研究者を育てた。

Jordan, D.S. & W.F. Thompson, 1913: Notes on a collection of fishes from the Island of Shikoku in Japan, with a description of a new species, *Gnathypops iyonis*. Proc. U.S. Nat. Mus., 46:65-72. 23.7x15.0cm. [10].

表紙に「アゴアマダイ、ハゼ、(ハリ)ゴチ、アネサゴチ、ニジキノバル (ハゼ科)」、「C」、「9」、「64」。「1914年3月6日受」。

p. 70 の ONIGOCIA MACROLEPIS (Bleeker)の下に「アネサゴチ」、同 Family GOBIIDAE の右に「(ハゼ科)」。

Kendall, W.C., 1908: Identity of a supposed whitefish, genus *Coregonus* *augsticeps* Cuvier & Valenciennes, with a northern cyprinid, *Platygobio gracilis* (Richardson). *Smithsonian Misc. Collect.*, 52:95-99. [121].

この文献の所在は今のところ不明である。

Kendall, W.C., 1912: Notes on a new species of flatfish from off the coast of New England. *Bull. Bur. Fish.*, 30:389-394, 1 pl. Washington. 28.1 x19.4cm. [148]

「143」。

Kishinouye, Kamakichi [岸上鎌吉], 1923: Contributions to the comparative study of the so-called scombroid fishes. *J. Coll. Agric. Imp. Univ. Tokyo*, 8:293-475, pls. 13-24. ハードカバー, 26.0x19.0cm. [200].

扉に「呈 倉場富三郎君 著者」の献呈辞がある。「蔵書印」、「大正十三年3月28日受」、「12」。

p. 462の *Auxis hira* Kishinouye [ヒラソウダ] と p. 463 の *Auxis maru* Kishinouye [マルソウダ] の頭にチェックがある。キワダの骨格を示した pl. 29の左上隅に「富田 松本」と書込みがある。

岸上博士は慶応3年(1867)生まれ(富三郎より3才年長),明治23年(1890)東大理学部動物学科卒、後に同大農学部教授となり、昭和4年(1929)没。本書は俗に「サバ型魚類の研究」と略称され、サバ・サワラ・カツオ・マグロ類について、外部形態のほか、骨格・神経系・筋肉・血管系・内臓などを詳しく比較し、食性・生長・回遊などについても論じている。現在においてもこのグループの魚の研究者にとっては必読の文献である。図はすべて Kikkawa Shigezo (吉川繁蔵?) の筆による。

Kishinouye, Kamakichi, 1926: A new aberrant form of the Cybiidae from

Japan. *J. Coll. Agric. Imp. Univ. Tokyo*, 7:377-382. 26.0x19.0 cm.

[Cybiidae は古くサワラ科の科名としてもちいられた。記載されているのはアブラソコムツ]. [157].

「152」。

(前掲の論文と同じ雑誌であるのに、巻号の若いこちらの刊行年が3年遅いのはなぜだろうか?)。

Seale, A., 1908: The fishery resources of the Philippine Islands, part I, commercial fishes. *Philipp. J. Sci.*, 3 (6):513-531, 12 pls. 26.0x18.7cm. [143].

「倉場印」、「Mr. N. Nikson」、「138」。

本誌本号 (Vol. 3 No. 6) は pp. 413-551, 32 pls. よりなり、Seale の報告以外に「フィリピン原住民の生体学 (Bean, R.B.)」、「ミンダナオ島及びスルー諸島の地形踏査 (Smith, W.B.)」、「ミンダナオ島ダバオ〜マティの地形踏査 (Smith, W.B.)」、他に短報 3 篇が掲載されている。同一著者による本報告 part II (海綿)(本誌本号 Vol. 4 No. 1)の別刷とともに仮綴じされていたことから、富三郎が本号を求めた目的は Sealeの報告にあったのであろう。

なお、Seale の本論文の別刷も寄贈図書に含まれていて、図書原簿では[140]の番号で記載されているが、現物は所在不明である。

Seale, A., 1909: New species of Philippine fishes. *Philipp. J. Sci.*, 4 (6):491-543, 13 pls. 26.5x19.0cm. [142].

「137」。

Smith, H.M., 1902: Description of a new species of blenny from Japan. *Bull. U.S. Fish Comm.*, 1901:93-94. 25.4x18.0cm. [イトギンボ]. [99]. 「94」。

Smith, H.M., 1902: Notes on five food-fishes of Lake Buhi, Luzon, Philippine Islands. *Bull. U.S. Fish Comm.*, 1901:167-171, pls. 22. 27.9x19.5 cm. [89].

「84」。

Smith, H.M. & T.E.B. Pope, 1906: List of fishes collected in Japan in 1903, with descriptions of new genera and species. *Proc. U.S. Nat. Mus.*, 31:459-499. 23.6x15.1cm. [1], [2].

「1914年3月6日受」、「1」。

同じものが2部あり、[2]の表紙に「Duplicate」と記してある。

Snyder, J.O., 1904: A catalogue of the shore fishes collected by the Steamer Albatross about the Hawaiian Islands in 1902. *Bull. U.S. Fish Comm.*, 1902:513-538, pls. 1-13. 27.4x19.1cm. [93].

「88」。

Snyder, J.O., 1907: A review of the Mullidae, surmullets, or goatfishes of the shores of Japan. *Proc. U.S. Nat. Mus.*, 32:87-102. 23.8x15.0cm. [50].

表紙に「ベニサシ」、「D」、「47」。扉に「ウミヒゴイーベニサシ」、「1914年3月6日受」。

Snyder, J.O., 1908: Descriptions of eighteen new species and two new genera of fishes from Japan and the Riu Kiu Islands. *Proc. U.S. Nat. Mus.*, 35:93-111. 23.8x15.0cm. [48].

表紙に「ハナアナゴ、タカサゴウツボ」、「D」、「10」、「45」。扉に「アナゴ、ウツボ」、「1914年3月6日受」。

p. 93 の *LEPTOCEPHALUS FLAVIROSTRIS*, new species の下に「ハナアナゴ」、
p. 94 の *GYMNOTHORAX ODIOSUS*, new species の下に「タカサゴウツボ」。

Snyder, J.O., 1909: Descriptions of new genera and species of fishes from Japan and the Riu Kiu Islands. Proc. U.S. Nat. Mus., 36:579-610. 23.8x15.0cm. [49].

表紙に「ヨウジウオ科」、「D」、「46」。扉に「ヨウジウオ」、「1914年3月6日受」。

p. 597 の Family SYNGNATHIDAE の下に「ヨウジウオ」。

Snyder, J.O., 1911: Descriptions of new genera and species of fishes from Japan and the Riu Kiu Islands. Proc. U.S. Nat. Mus., 40:525-549. 23.8x15.0cm. [46].

「1914年3月6日受」、「43」。

p. 525, Family SYNGNATHIDAE の上に「ヤウジウオ科」、p. 527, Family RUVETTIDAE の上に「バラムツ属(マ)」、p. 527, Family PEMPHERIDAE の上に「ハタンボ科」。

Snyder, J.O., 1912: Japanese shore fishes collected by the United States Bureau of Fisheries Steamer "Albatross" Expedition of 1906. Proc. U.S. Nat. Mus., 42:399-450, pls. 51-61. 23.8x15.0cm. [47].

表紙にインクで「ウツボ, ヨウジウオ, カナガシラ, シロガネウオ, カレイ, ハゼ」、鉛筆で「ハナアナゴ, タカサゴ, カジカ属, ベロ, アイナメ, イソスズメダイ, ハマフグ, オキセミホウボウ, マツマエメバル」。「1914年3月6日受」、「44」。

Snyder, J.O., 1913: The fishes of the streams tributary to Monterey Bay, California. Bull. Bur. Fish., 32:47-72, pls. 19-24. Washington. 28.1x19.4cm. [149].

「144」。

Tanaka, Shigeo, 1911-1930: Fishes of Japan. 田中茂穂: 日本産魚類図説 第一冊 (Vol. 1-10) 20p. + pp. 1-186, pls. 1-50. 第二冊 (Vol. 11-20) viii + 31p. + pp. 187-370, pls. 51-100. ハードカバー, 26.3x18.5cm. [198], [199]. 仮綴の一冊 (Vol. 41-48) pp. 785-960, pls. 101-189. [214].

第一冊、第二冊に「蔵書印」、「11」。第二冊扉に「(370)-186 = 184」と、この冊の頁数が計算してある。Vol. 41-47の各表紙には「Red. 21/1/1928」から「Red. 15/7/30」と各巻の刊行後1ヶ月以内の日付が記されている。

田中茂穂 (1878-1974)は東大理学部動物学科卒、同学部助教授を経て昭和13年

に同教授。ジョルダン博士 (David Star Jordan) に師事し、同博士との共著論文もある。日本の魚類学の基礎を築いた。

本図譜は、「日本内地は固より台湾、琉球・・・樺太に産する魚類を悉く図説せん」との目的で、各巻に4-10種を収める分冊の形でVol. 48まで継続刊行したものである。本文各頁の上半分は英文、下半分は和文であり、各巻の表紙にある英文表題は Figures and descriptions of the fishes of Japan including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile, and southern Sakhalin である。各10巻が刊行されるごとに、全体の目次、欧文および和文による魚種の索引も付けて、改めて1冊の本として製本・販売されたい。背表紙および扉の表題は英文のみで Fishes of Japan となっている。倉場氏の所持した第一、二冊はこの形のものである。

寄贈図書には Vol. 21-40 が欠けている。

大日本水産会 (編), 1897. 訂正増補日本重要水産動物図解説. 嵩山房, 東京.
100 pp. 22.1x15.0cm. [224].

「18」。

明治22 (1889) 年にパリで開かれた万国博覧会に、農商務省水産局は日本産重要水産動植物 159種の石版刷りの絵を出品した。これをもととして、後日、大日本水産会では収録種数を増やしながらか3回にわたり図集を刊行した。本書はその第3版の解説書である。主として解説に当たったのは松原新之助氏であるが、箕作佳吉・岸上鎌吉博士らの協力を得ている。

海獣から珊瑚・海綿に至るまで 357種 (うち魚類は 240種) を収録。解説では「おつとせい」(20行)・「あしか」(18行)・「まだひ」(16行)などを重視して、「ひらめ」(2行)・「とらふぐ」(1行)などには簡単に触れている。

本書が解説の対照としているのは、上述の図集第3版で、伊藤熊太郎の筆になる 357種の水産動物の絵が7枚のパネルとして嵩山房から発売された。この図集は寄贈図書の中には存在しない。

石川千代松・松浦歆一郎, 1897. 帝国博物館天産部魚類標本目録 (参考室陳列之部). 東京帝国博物館. ii+64 pp. 22.0x15.0cm. [228].

「21」。

p. 24 「Fam. PLEURONECTIDAE 族 比目魚類」 [ヒラメ類] とある見出しの横と、p. 36 の3行目と4行目の間にかぎ状の線が入れている。

表題は和英両文で記され、序言は英文のみで記されているが、本体のリスト中の産地は和文のみで示されている。博物館で陳列室に展示されている魚類標本の目録で、少なからぬ魚種で複数の標本 (多いものでは「うぐひ」の27点、「あゆ」の25点) が掲載されている。日本産 1,037点、外国産39点が収録されているが、長崎産は12点に過ぎず、鹿児島産の51点、宮古島産の35点などくらべ極めて少

ない。

石川千代松 (1861-1935)は東京帝国大学理科大学動物学科を卒業、同大学助教授を経て、同農科大学教授 (1890-1924)。現在でも多くの府県でおこなわれている琵琶湖産稚アユの河川放流は、同氏の研究が端緒となって始まった。

辛川十歩, 1938. 目高考 資料篇. 久留米. 215pp. [220].

この文献の所在は今のところ不明である。

岸上鎌吉, 1902. たひ漁業調査. 水産調査報告, 10 (3):57-68, pls. 2-7. 25.7x 17.8cm. [208], [209].

同じものが2冊ある。[208]に「倉場印」、「3」。[209]には「島村」の認印（「倉場印」より心持ち大きい）と、同じく「3」。

[208]の pl. 5「キタヒ・チタヒの頭骨」の上部余白に「浦田」。pl. 5とpl. 6の順序が入れ代わっている。

[209]の pl. 6「マタヒの頭骨」の右下に「紀伊」、背面図と側面図には頭蓋を構成する個々の骨に1-15の番号を記入してある。pls. 5, 7は欠。

チダイ・キダイ・マダイ3種の色刷りの絵を掲げ、かつ外形では似ているが骨格を比較すると区別が容易であると頭骨および顎骨を図示している。画家は J. Urata と記されている。

倉本三郎, 1941. 長崎県産魚類方言に就いて. 長崎之水産, (44). 5 pp. 21.3x 15.1cm. [221].

表紙に縦に印刷してある「地方農林技師 倉本三郎」の右に添えて「長崎市丸尾町県水産試験場」、左下に「氏より」。「1941年12月20日受付」、「15」。

太平洋戦争の開戦に伴い多くの食品や日用品に公定価格が設けられた。本冊子の序言で「偶々魚類の公定相場が規定せられ業者は地方名と和名との異同識別に多大の困難を感じて居られる模様なので」と刊行の趣旨が記してある。魚類111種（またはグループ）につき、「公価設定魚種名・和名・長崎方言」を示しているが、魚種の配列に規則性は見いだせない。

長崎県師範学校, 1914. 長崎県師範学校所蔵長崎県産魚類假標本目録. 3+29 pp. 21.7x15.0cm. [225], [226] (同じものが2部ある)。

[225]の表紙では「大正三年九月」の下に「(一九一四年)」、「19」。

[226]では表紙中央下に「-1914-」、表紙右肩に「1914」。本文第1頁の表題の下に「宮崎直編」。最初のナメクジウヲ科から最後のアカグツ科の科名の頭に「1」から「133」までの番号がつけ加えてある。(三)すなやつめ、(六〇)あゆなど19種の淡水魚の頭に丸で囲って「淡」、(八九)ほしながあなごは「ほしながあなご」、(九九)わかうつぼは「わたうつぼ」と訂正。

本冊子は長崎博物学会が蒐集し、長崎県師範学校に所蔵を委託した県産の魚類標本の目録である。種名(学名ではなく和名)の頭に漢字で1-555まで番号がつ

けてあり、「数字は所蔵標本番号」とあるが、1魚種につきひとつの番号しか見られないので、むしろ所蔵標本の魚種番号というべきであろう。これらのうち27, 77, 81, 260, 465の5つにはそれぞれ27aなどがあるから、総計560種となる(ただし、ナメクジウオ、ヌタウナギ、スナヤツメを含む)。他方、379-381および493の種名欄は空白になっている。

西川藤吉, 1901. ひしこ調査報告. 水産調査報告, 10 (1):1-16, 1 pl. 25.7x17.8 cm. [207]

「倉場印」、「2」。

カタクチイワシの卵発生および仔魚についての報告である。

本冊子の後半(pp. 17-30, 1 pl.)には同じ著者による「赤潮調査報告」が掲載されている。

西川藤吉, 1903. いわしノ発生. 水産調査報告, 12 (2):1-5, 1 pl. 25.7x17.8cm. [211]

「倉場印」、「5」。

マイワシの卵発生および仔稚魚についての報告である。

本冊子には多川 勇「神奈川県下いわし漁業調査報告」(pp. 7-56)および遠藤吉三郎「青森県下北郡海藻減少の原因」(pp. 57-70)も掲載されている。

水産学会, 1915. 水産学会報, 第一巻第一号. 96 pp. [231]. 22.4x15.0cm.

「呈 倉場富三郎君 岸上謙吉」の献呈辞、「倉場印」、「24」。

pp. 1-24の岸上による「サバ・サハラ・シビ類の研究」のうち、下記の文章の頭に小さく○印が付けてあり、下線部には傍線が引いてある。「研究の結果として、サバ類二種、サハラ類五種、ハガツヨ類二種、シビ類五種、カツヨ類四種・・・・」(p. 2)、サバの項で「本種に二種の型あり」、「ヒラサバは」、「マルサバは」(p. 5)、「サハラ属には・・・四種あれども」(p. 8)。またマグロ類3種の学名に次のような訂正を加えている。「トンボシビ (*Thunnus alalunga?*)」を「*Thunnus germo* (Lacepede)」(p. 18)、「メバチ(*Thunnus mebachi* n. sp.)」を「*Parathunnus mebachi* (Kish.)」、「キハタ(*Thunnus macropterus*)」を「*Neothunnus macropterus* (Schlegel)」(p. 19)。これらの訂正は1924年に岸上博士から献呈を受けた Kishinouye (1923) に基づいている。

pp. 23-37 の藤田経信・脇谷洋次郎「紀州産魚類目録」は183種の魚のリストで、それぞれ学名・和名・方言が示されている。このうち17番目のナマズと次のドジョウ、20番目のドロバエと次のウグヒ、22番目のカハムツと次のフナの間を短い線で区切ってある。

田中茂穂, 1912. 日本内地産代表的魚類目録. 26 pp. 18.9x12.8cm. [219].

「13」。

氏の所有する魚類標本のうち、希望者に分譲できる300種の魚のリストである。

田中茂穂（編），1913. 魚学雑誌，1（1-7），通算 190 pp. 22.8x15.0cm. [230].

全体が仮綴じしてある。1号表紙に「倉場印」、「3月15日受」、「23」。7号表紙に「9月8日受」。

1号 p. 20-21 に大日本水産会報第 364号（1913）から玄翁なるひとの「カラスミに就いて」という報文が抄録して紹介されている。そのうち次の文章の下線部に傍線が引いてある。「カラスミの原料たる卵子を有する鯿の産地は長崎県下にては五島の富江、玉の浦、西彼杵郡野母、樺島、瀬戸にて、薩摩及び熊本県天草地方よりも・・・」。

本雑誌は田中茂穂氏が日本における魚学振興と同学の士の交流を目指して、編集・発行したものであるが、1巻7号をもって終刊となった。魚類のみならず、甲殻類・軟体類・ナマコ・水禽などについての記事や、地方在住の標本収集家の消息などが載っている。

金子一狼氏の寄稿論文として「長崎方言の『カナガシラ』」（1号，13-16）と「長崎方言の『グチ』」（4号，5-8）の2篇があり、更に田中は「各地研究者小照（二）」（2号，20）で金子氏を紹介している。

金子一狼氏（1872-1965）は明治36年（1903）に長崎医学専門学校を卒業、長崎市内（はじめ本紺屋町、のちに銀屋町）で呼吸器専門の開業医を営み、終戦後は聖母の騎士学園に住まれた。長崎県博物学会の有力メンバーで鉱物・植物・貝類・魚類と広範囲に博物標本を収集した。魚類標本は長崎県師範学校に保存されていたが原爆で焼失した。詳しくは、藤田 正（1984）「金子一狼先生を偲ぶ」（日本貝類学会「ちりぼたん」14，102-105）を参照されたい。

倉場富三郎氏（1870年生）は本雑誌の金子一狼氏に関係する部分に特別の関心を示していない。年齢も近いことから、二人の間に交流があって当然と思われるにも関わらず、今のところその事実を示す証拠を見いださない。

田中茂穂，1915. 日本産魚類の十新種. 動物学雑誌，27（325）:565-568. 25.1x17.6cm. [215].

「大正五年3月4日受」、「9」。

10種の魚についての新種記載であるが、文章による説明のみでいずれも図示されていない。これらのうち、現在でも有効と認められているものは3種（1種は亜種として）である。10種中7種は長崎魚市場で金子一狼氏が採集した標本に基づいており、また3種については和名を同氏に従っている。ハナチゴオコゼは新属新種と認め、属名を金子氏に献じて *Kanekonia florida* と命名している。

田中茂穂，1916. 日本産魚類の四新種. 動物学雑誌，28（327）:25-28. 25.1x17.6cm. [216].

「10」。

4種のうち3種までが金子一狼氏の採集によるもので、また2種については和

名を同氏に従っている。現在、4種とも新参シノニムとされている。

田中茂穂, 1916. 日本産魚類の一新種. 動物学雑誌, 28 (328):67. 25.1x17.6cm. [217].

「11」。

田中茂穂, 1937. 魚類の科学的及び応用的考察. 真鍋内科同窓会会報, (10):1-20. [218]. 22.2x15.2cm.

表紙に印刷されている「東京帝国大学理学部助教授 理学博士 田中茂穂」の右に「東京本郷動物学教室」。「蔵書印」、「1938年1月14日受」、「12」。

次の文章の下線箇所に赤鉛筆の傍線がある。「此日本だけに・・・一千三百種位居るであらう」(p. 4)、「日本の魚を先づ一千種と致しまして、世界の魚がどの位あるかと申しますと普通の考方では一万種乃至三万種と云ふ事になって居りますけれども」(p. 5)、「鮫の類などには中々大きいものがあり・・・ジンベイ鮫、馬鹿鮫・・・」(p. 9)、「日本で一番小さいのは海岸に多いイソハゼで之は・・・」(p. 10)、「眼が見えない・・・一等多いのは有明海であります、ワラスボと云ふ魚」(p. 11)、「シロウオ (日本にはシラウオと云ふ別種のものがあり・・・シロウオはミミズハゼと共にハゼ類に属します)と云ふ魚」。

p. 14-19 に出てくる次の魚名に鉛筆の傍線がある。ホンサバ、ゴマサバ、テンジク鯛、イトヨリ、メジナ、ブレ、グレ、黒鯛、ヒメ、糸クリ、ベラ、フグ、スケトオ、ミンタイ。

p. 12 でシロウオとミミズハゼについて書いてある箇所で、原文に両者を取り違えるミスがあり、それを赤インクで訂正してある。字体と記載内容からみて、この訂正は倉場氏によるものではなく、水産学部分館に移管された以降のものと考えられる。

B. 軟体動物に関する文献

Sasaki, Madoka [佐々木 望], 1929: A monograph of the dibranchiate cephalopods of the Japanese and adjacent waters. J. Coll. Agric. Hokkaido Imp. Univ., 20 (Suppl. no.), v+357 pp. pls. 1-30. [頭足綱二鰓類=イカ・タコ類]. ハードカバー (水産学部にて再製本?), 31.0x23.0cm. [193].

「蔵書印2ヶ所」、「倉場印」、「27/9/1929 ¥16.00」。

佐々木博士 (1883~1927) は明治42 (1909) 年に東京帝国大学理科大学動物学科を卒業、東北帝国大学農科大学水産学科の教授を経て、大正7 (1918) 年より北海道帝国大学附属水産専門部教授となる。頭足類研究の権威であったが、昭和2年にブダペストで開かれた国際動物学会に出席中に病を得て、そのまま客死された。

C. 甲殻類に関する文献

- Andrews, E. A., 1907: The young of the crayfishes *Astacus* and *Cambarus*.
Smithsonian Contrib. Knowl., 35 (1718):1-79, pls. 1-10. [ザリガニ類の
幼期]. 32.7x24.8cm. [122].
「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「117」。
- Cochran, D. M., 1935: The skeletal musculature of the blue crab, *Callinectes
sapidus* Rathbun. Smithsonian Misc. Collect., 92 (9):1-76. [ガザミの骨
格筋]. 23.7x15.8cm. [103].
「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「98」。
- Kishinouye, K. 1926: Two rare and remarkable forms of macrurous Crustacea
from Japan. Annot. Zool. Jpn., 11:63-70. [長尾類=エビ類]. 25.9x18.4
cm. [166].
「161」。
- Rathbun, M. J., 1902: Japanese stalk-eyed crustaceans. Smithsonian Misc.
Collect., 26 (1307):23-54. [眼柄のある甲殻類=エビ・カニ・シャコ].
24.3x15.6cm. [5].
「4」。
- Rathbun, M. J., 1912: New decapod crustaceans from Panama. Smithsonian
Misc. Collect., 59 (13):1-3. [十脚甲殻類=エビ・カニ・ヤドカリ].
23.7x15.8cm. [102].
「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「97」。
- Rathbun, M. J., 1919: A new species of crab from Japan. Bull. Am. Mus.
Nat. Hist., 41:593, 1 pl. 24.5x16.0cm. [162].
「Red. 2/4/36」(Red. は Received の略であろう)、「157」。
下から2行目の原文で the outer maxillipeds are typically narrow とある
部分で are と typically の間に逆V字の挿入記号、欄外に「a/」が記してある。
- Rathbun, M. J., 1921: New species of crabs from China. Proc. Biol. Soc.
Washington, 34:xx-xx. [145].
この文献の所在は今のところ不明である。
- Rathbun, M. J., 1924: Brachyura, Albuneidae and Porcellanidae. Part 37 of
"Results of Dr. E. Mjoberg's Swedish Scientific Expeditions to Austral-
ia 1910-1913". Ark. Zool., 16 (28): 33 pp. [短尾類=カニ類, クダヒゲガ
ニ科, カニダマシ科 (後2者はカニではなくヤドカリの仲間である)]. 21.9x
14.1cm. [163].
「Red. 2/4/36」、「158」。
- Rathbun, M. J., 1929: New and rare Chinese crabs. Lingnan Sci. J., 8:75-

- 104, pls. 5-15. 23.0x15.6cm. [155].
「2/4/36」、 「150」。
- Rathbun, M. J., 1932: Preliminary descriptions of new species of Japanese crabs. Proc. Biol. Soc. Washington, 45:29-37. 23.2x15.5cm. [146].
「141」。
- Richardson, H., 1907: A new terrestrial isopod from Guatemala, the type of a new genus. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:447-450. [陸生等脚類]. 23.7x15.1mm. [6].
「1914年3月6日受」、 「5」。
- Schmitt, W.L., 1929: Chinese stomatopods collected by S.F. Light. Lingnan Sci. J., 8:127-148, pls. 16-19. [シャコ類]. 23.0x15.6cm. [153].
「148」。
- Schmitt, W.L., 1930: Some observations on the Crustacea on Tortugas, Florida. Carnegie Inst. Year-b., (29):343-346. [テッポウエビ]. 25.5x17.2cm. [174].
「167」。
- Schmitt, W.L., 1931: Some carcinological results of the deeper water trawlings of the Anton Dohrn, including description of two new species of Crustacea. Carnegie Inst. Year-b., (30):389-394. [深海トロールで得た甲殻類]. 25.3x17.2 cm. [175].
「168」。
- Schmitt, W.L., 1932: Two new species of shrimp from the Straits of Formosa. Lingnan Sci. J., 10:265-268, 1 pl. 23.0x15.6cm. [154].
「149」。
- Shoemaker, C.R., 1920: The amphipods of the Canadian Arctic Expedition, 1913-18. Rep. Can. Arctic Exped. 1913-18, Vol. 7: Crustacea, Part E: Amphipods, 30 pp. Thomas Mulvey, Ottawa. [甲殻類ヨコエビ・ワレカラの仲間]. 24.8x16.5cm. [159].
「154」。
- Shoemaker, C.R., 1934: Two new species of Corophium from the west coast of America. J. Washington Acad. Sci., 24 (8): 356-360. [甲殻類ドロクダムシ科]. 25.3x17.8 cm. [177].
「170」。
- Shoemaker, C.R., 1934: The amphipod genus Corophium on the east coast of America. Proc. Biol. Soc. Washington, 47: 23-31. [甲殻類ドロクダムシ科]. 23.2x15.4 cm. [144].

「139」。

Shoemaker, C.R., 1935: A new species of amphipod from Mt. Kinabalu, North Borneo. Bull. Raffles Mus. Singapore, (10):64-67, 1 pl. [甲殻類ヨコエビ科]. 24.8x15.5cm. [156].

「2/4/1936」、「151」。

Stimpson, W., 1907: Report on the Crustacea (Brachyura and Anomura) collected by the North Pacific Exploring Expedition, 1853-1856. Smithsonian Misc. Collect., 49 (1717):1-240, pls. 1-26. [甲殻類(カニ類およびヤドカリ類)]. 23.8x15.8cm. [108].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「103」。

Tattersall, W.M., 1937: New species of mysidacid crustaceans. in Reports on the collections obtained by the first Johnson-Smithsonian Deep-sea Expedition to the Puerto Rican Deep. Smithsonian Misc. Collect., 91 (26):1-18. [アミ科の甲殻類]. 23.8x15.8cm. [111].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「106」。

Weymouth, F.W. & C.H. Richardson, Jr., 1912: Observations on the habits of the crustacean *Emerita analoga*. Smithsonian Misc. Collect., 59 (7):1-13, 1 pl. [スナホリガニ]. 23.8x15.8cm. [112].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「107」。

Wilson, C.B., 1935: New parasitic copepods. in Reports on the collections obtained by the first Johnson-Smithsonian Deep-sea Expedition to the Puerto Rican Deep. Smithsonian Misc. Collect., 91 (19):1-9., 3 pls. [寄生性かい脚類]. 23.8x15.8cm. [136].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「135」。

Wilson, C.B., 1935: A new and important copepod habit. Smithsonian Misc. Collect., 94 (7):1-13. [かい脚類の習性]. 23.8x15.8cm. [100].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「95」。

岸上鎌吉, 1900. 本邦産くるまえび属. 水産調査報告, 8 (1):xx-xx. [206].

この文献の所在は今のところ不明である。

D. その他の動物に関する文献

Clark, A.H., 1907: On a collection of crinoids of the genus *Euciocrinus* from Japan, with description of a new species. Proc. U.S. Nat. Mus., 32:569-574. [マダラウミシダ]. 23.6x15.1cm. [9].

「1914年3月6日受」、「8」。

Clark, A.H., 1931: A monograph of the existing crinoids. Vol. 1. The

comatulids. Part 3. Superfamily Comasterida. Bull. U.S. Nat. Mus., 82: vii + 815 pp. pls. 1-82. [ウミユリ綱ウミシダ科]. 未製本, 30.8x25.0cm. [194].

「Red. 31/12/37」、「9」。p. 73 以降は隣接のページが切り離されることなく、天もしくは小口でつながったままである。

Fisher, W.K., 1930: Asteroidea of the North Pacific and adjacent waters.

Part 3. Forcipulata (concluded). Bull. U.S. Nat. Mus., 76:1-356, pls. 1-93. [ヒトデ類]. ハードカバー, 29.8x24.0cm. [197].

「Red. 31/12/37」、「10」。扉に「653-1」を線で消して「830-14」

Mathew, W.D. & W. Granger, 1917: The skeleton of *Diatryma*, a gigantic bird from the Lower Eocene of Wyoming. Bull. Am. Mus. Nat. Hist., 37:307-326, pls. 20-33. [始新世の巨鳥の化石]. 24.4x16.4cm. [160].

「155」。

Seale, A., 1908: The fishery resources of the Philippine Islands, part II, sponges and sponge fisheries. Philipp. J. Sci., 4 (1):57-64, 8 pls.

[141]. 26.7x19.2cm.

「倉場印」、「136」。

青木大勇, 1922. 水母螫症ニ就テ. 皮膚科及泌尿器科雑誌, 22 (10):1- 57. 25.0x17.0cm. [223].

表紙に「謹呈 倉場君 著者」と献呈の辞がある。「1922年11月27日受」。

青木大勇は大正3 (1914) 年5月からの2年間、長崎医学専門学校の教授を務め、以後昭和7年まで大浦で長崎皮膚科病院を経営した。本論文は、現在でも長崎県下の海水浴場で、学童などが刺されて、たまには死にいたるほどの被害を与えるハナガサクラゲについて、動物学的研究、臨床学的所見、治療学的研究などを詳述したものである。(この文献の所在は現在は不明である。上の記述は千田が所持する1977年6月頃につくったコピーによる。)

岸上鎌吉, 1904. さんごノ研究. 水産調査報告, 14 (1):1-31, pls. 1-9. [210].

25.7x18.1cm.

「倉場印」、「4」。

高橋周平, n.d. 朝鮮海の克鯨に就いて. 9 pp. 22.3x15.4cm. [222].

「16」。

表題に添えて「Andrews R.C., -The California gray whale (Mem. Am. Mus. Nat. Hist, 1, 5. 1914)」とある。

E. 漁業に関する文献

Anon., 1913: Annual report of the Commissioner of Fisheries to the

Secretary of Commerce and Labor for the fiscal year ended June 30, 1912. Washington Gov. Printing Office. 69 pp. 23.2x15.0cm. [173]. 「倉場印」、「166」。

Cobb, J.N., 1900: The sturgeon fishery of Delaware River and Bay. U.S. Fish Comm. Rep. for 1899:369-379, 4 pls. 22.9x14.8cm. [88].

表紙表題の上に「チヨザメ漁業」、「83」。

Edwards Brothers, 1897: A short history of the growth of the British deep sea fisheries. Andrew Reid & Co., Newcastle-Upon-Tyne, 20 pp.+ 4 pls. 20.6x16.7cm. [203].

「3」。

p. 15 its [蒸気トロール] introduction in 1881 および (the commencement of the) deep sea fisheries in 1663 に下線が引いてある。

Newcastle-Upon-Tyne の North Shieldsで、機関を備えた鋼製の漁船の設計・建造を業務とする会社の出版物で、次のような内容を含んでいる。英国における鋼製の蒸気漁船の導入は深海漁業の発展をもたらし、雇用の増進・民衆の食生活の改善・関連産業の振興などにも寄与した。蒸気トロールの操業法や帆船トロールと比べての利点、蒸気船のための漁業基地が備えるべき条件はなにか。良い乗組員が不可欠だから、外国で蒸気トロールを始めたいひとには乗組員を送る手配もする。

この小冊子の刊行年は、富三郎がホーム・リンガー商会の長崎汽船漁業に入ってから、最初の仕事として英国から蒸気トロール船の購入の手配にかかった明治40年より10年も早い。受入れ年月日が記してないので、この仕事をする事になってこの冊子を読んだのか、または以前からトロール漁業に関心をもっていたので長崎汽船漁業に入ったのか明らかでない。

Edwards, G.S.F., 1905: The origin and growth of British fisheries and deep sea fishing. England. 17.0x21.5cm. [204].

今のところ現物の所在は不明である。著者は前記出版物(1897)を刊行したエドワーズ兄弟会社の経営者の一人である。丸善(株)の評価額は前記のもの250円に対し本書は400円であるので、総ページ数40程度と思われる。

Fryer, C.E., 1910: International regulations of the fisheries on the high seas. Bull. Bur. Fish., 28:93-102. Washington. 28.1x19.4cm. [147]. 「142」。

Herre, A.W., 1925?: Philippine Fisheries. The Mid-Pacific, ?:217-230. 26.0x17.7cm. [205].

「5」。

表記記事の後(pp. 231-232)には Wakiya, Y. "The Chinese snake-head

fishes” [カムルチー] が載っている。

北原多作, 1904. さんご漁業調査報告. 水産調査報告, 13 (3):1-24, 5 pls.
25.7x18.1cm. [212].

「倉場印」、「6」。

下 啓助・妹尾秀実, 1910. 台湾水産業視察復命書. 2+1+1 pl.+128, pls. 1-15.
26.2x18.6cm. [213].

「1」。

前年にほぼ1ヶ月にわたり、台湾全土を巡って水産業の現況を視察した調査報告書である。漁業・厦門との貿易・製造業・養殖業など広範な調査がおこなわれている。「第七章採集魚類の解説」(pp. 106-128)に水産講習所(東京水産大学の前身)標本室に所蔵されている台湾産魚類として52科 119種のリストが掲げられている。その多くは「先年台湾ヨリ水産講習所へ寄贈セラレタル」ものであるが、この視察旅行中に採集したものが31種(?)あり、それらについて簡単に解説し、図示してある。

武進沈同芳, 1906. 中国漁業歴史. 江浙漁業公司, 上海. [227].

この文献の所在は今のところ不明である。

F. その他の文献

Abbot, C.G. & L.B. Aldrich, 1932: An improved water-flow pyrheliometer and the standard scale of solar radiation. Smithsonian Misc. Collect., 87 (15): 1-8, pl. 1. [日照計]. 23.8x15.7cm. [101].

「蔵書印」、「1937年6月14日受」、「96」。

Anon., 1911: Fishes - List of United States Government publications for sale by the Superintendent of Documents, Washington D.C. Price List 21, 3d Edition:1-107. 18.4x10.1cm. [167].

「倉場印」、「1914年3月 日受付」、「162」。

アルファベット順に配したおおまかな分類群や項目のもとに、文献の表題・掲載誌名・頁数・形・価格などが示されているが、各文献の著者名はない。

Cephalopods と Crustaceansに「赤の下線付きのX」、Crab と Crawfish に「X」、Food fishに「赤線」。個々の文献にはなんらの印もつけられていないが、富三郎はこのような資料で文献を探し、発注していたのであろう。

Messrs. Hutchinson & Co., 1923-1924: Hutchinson's animals of all countries. London. Parts 22-50. 28.0x22.0cm. [168], [169], [170].

「163」。

哺乳動物・鳥類・魚類・爬虫類・昆虫など現世に生存するあらゆる動物について、それぞれの分野の権威者が分担執筆した一種の「動物百科」である。初め、

隔週に1分冊ずつ出版して48分冊で完成の予定であったが、結局50分冊までとなった。各分冊はいずれも48ページよりなり、最後のページの終わりがたとえある文章の中途でもそこで切られて、続きは次の分冊の初めのページに現れる。寄贈図書にあるものの最初の第22分冊は p. 1009で始まり、最後の第50分冊の終わりは p. 2344である。第22、23分冊には刊行の日付が入っていないが、第24分冊は1923年12月27日に、また第50分冊は1924年12月23日に出版されている。寄贈された29冊の分冊は3つにわけて綴じ紐で綴じられていた。

「図譜」と関係の深い部分、および富三郎が特に興味を持っていたと考えられる部分としては以下が挙げられる。

- 1) Chap. 42-47, pp. 1369-1501. Norman, J.R. による魚類概説といくつかの分類群についての詳説。Norman は著名な英国の魚類学者で、1931年に出版されたかれの「A history of fish」は日本でも「魚の博物学」（黒沼勝造訳、大日本出版、1943）および「定訳魚の博物学」（黒沼勝造・上野達治訳、社会思想社、1970）として有名である。
- 2) Chap. 48-55, pp. 1501-1641. 上記に含まれていない分類群の魚についての Regan, C.T. による解説。Reganの残した多くの業績のひとつに、シラウオ科魚類の分類がある。
- 3) Chap. 56, pp. 1642-1692. Calman, W.T. による甲殻類の解説。
- 4) Chap. 71-77, pp. 2034-2182. Robson, G.C. による軟体動物の概説、分類群ごとの解説、地理的分布についての記述など。
- 5) Chap. 78, pp. 2183-2217. Bather, F.A. による棘皮動物（ヒトデ・ウニ）の解説。
- 6) Chap. 83, pp. 2259-2325. Duncan, F.M. による腔腸動物（クラゲ・イソギンチャク・サンゴ）の解説。

National Geographic Society, 1921: The National Geographical Magazine, January, 1921:1-121. 25.2x17.7cm. [158].

「153」。

富三郎が本号を求めたのは主に次の記事のためであろう。

- 1) pp. 53-60. La Gorce, J.O.: Treasure-house of the Gulf Stream - The completion and opening of the new aquarium and biological laboratory at Miami, Florida.
- 2) pp. 61-68. Hashime Murayama: Sixteen color plates of warm-sea fishes. これらのページに該当するページ番号は I-VIII が付けられている。各ページに絵が2枚ずつ、簡単な説明を付けて載っている。15枚は魚の絵で、多くの場合水中を泳ぐ3尾が描かれ、1枚はカツオノカンムリである。表題は表紙の目次にあるのみで、本体部分には記されていない。各絵の中の右下

の部分に「Hashime Murayama 1919」とサインがしてある。

- 3) pp. 69-84. Nichols, J.T.: Interesting citizens of the Gulf Stream. 著者は上記 1) で紹介されている Treasure-house 魚類部門の学芸員で、フロリダ周辺の魚類の生態について、写真も添えて解説している。文中で上記 Murayamaの図版をしばしば引用している。

Smithsonian Institution, 1913: Classified list of Smithsonian publications available for distribution, January 1, 1913. Publ. 2161: 1-31. 23.6x15.8cm. [107].

表紙に「倉場印」、「1914年3月 日受付」、「99」（はじめ「156?」としてそれを線で消し、丸で囲ってある）。扉に「 月 日受」。

本書の中央（p. 14と15の間）に、Publications of the Smithsonian Institution issued between January 1 and September 30, 1913. (2244):1-4. が挟んである。この1頁目にも「 月 日受」。

U. S. Dep. Commer., 1913: List of publications of the Bureau of Fisheries available for distribution. Bureau of Fish. Doc., (614): 23 pp. 23.1x14.8cm. [161].

「倉場印」、「1914年3月 日受付」、「156」。

本冊子の後半の Index to subjects and authors において、次の項目の欄外に短い線で印してある。Black-bass; Crab, hermit, parasitic isopod, parasitic barnacle; Lobster culture; Shrimp, fresh-water, as fish food.

Webber, H. J., 1897: The water hyacinth, and its relation to navigation in Florida. U.S. Dep. Agric., Div. Bot., Bull., (18):? 23.2x14.5cm. [152].

表紙に「For Mr Glover xx Xxxxx」（xは判読不能な文字）、「147」。

表と裏の表紙および扉のみがあり、他の頁は紛失している。

農商務省水産局, 1916. 鮮魚輸送試験成績報告. 27 pp. + 1 pl. (folded) + 7 tables (folded). 26.2x19.0cm. [229].

「22」。

水産局の主導で、長崎・山口・滋賀・鳥取・石川・宮城・青森の7県が参加しておこなった表記試験の結果の報告書である。

第3部 「図譜」と「グラバー図書」

A 「グラバー図書」より発見されたメモ

「グラバー図書」を点検する過程で、一冊の和文冊子（[213]）の中に1枚のメモが挟まっていた（図3）。淡い青の細線で22本の横罫の入った21.3x14.9cmの薄い紙である。縦の罫線を鉛筆で引いて、4対の欄が作ってある。No. 1から30までの

番号の右に数字があり、合計を 598 と計算した横に 2/4/17 と記してある。No. 22 と 23 にはコチ、カナガシラ、No. 27 にイカ・タコ、No. 28-30 にはそれぞれエビ、カニ、シャコと添えてある。第一集乃至第三十集として装丁された「図譜」と比べると、これらの番号や数字が「図譜」の「集」番号とそれぞれに収めるべき図版の数を記したものと判断される。最終的に、786 枚の図版をグループ分けして 30 冊にまとめ（他に「魚名未定」として番号の付されていない 2 冊に 14 図版がある）、和綴じ製本して「図譜」が完成したのは 1936（昭和 11）年かその翌年である（第二十九集第 1 図版のノコギリガザミの絵の下に「昭和十一年二月作業」とある）。このメモによると 1917（大正 6）年 4 月には、「図譜」の構成についての富三郎の構想は固まっており、それまでに描きためた 598 枚の図版の編集も終わっていたように思われる。

更に、次に述べる Jordan らの「魚類目録」の p. 296 と p. 297 の間に、巾 83 mm の細長い紙を長さ約 135 mm に切った紙片が挟んであり、それには 5 行に分けて次のメモが残されていた。「田代、竹中屋。Tsuno-shachi-uwo。Kumagae-uwo。Ide-No-2733。Ezaki-”328」。「魚類目録」のこの辺りはトクビレ科 Agonidae の部分で、p. 296 にはクマガイウオとツノシャチウオが載っている。

B 「図譜」の魚名と「グラバー図書」

「グラバー図書」に含まれる文献の中でも、「図譜」作成の過程で魚類の学名と和名を調べるのに最もよく利用されたと推測されるのは David Starr Jordan とかれの弟子たちのものである。重複した分を除く 224 点の「グラバー図書」のうち魚類関係の文献は 171 点であるが、Jordan が単著者もしくは主著者であるものが 83 点と半数近くを占めている。他にかれの一番弟子ともいべき Snyder の論文が 7 点ある。これらのうち 67 点は日本産魚類に関するもので、分類群ごとに再検討し総説したもの（review）が多く、しかも多くの種類について日本名も示している。また、これらの文献の大部分は「図譜」作成期間の初めに購入されていて、富三郎により多くの書込みがなされている。

Jordan, Tanaka, & Evermann (1913) “A catalogue of the fishes of Japan”（以下「魚類目録」と略記）はそれまでの Jordan らの日本産魚類についての研究成果の集大成である。「図譜」には合計 682 枚の魚類の図版があるが、富三郎が種のレベルまで同定して学名と和名を図版上に記しているのは 487 種であり、このうち 37 種は「魚類目録」には含まれていない。両者に出ている 450 種について学名を比べると、全く違うもの 1 種、属名が違うもの 8 種、種名が違うもの 6 種のみである。また和名においても 14 種のみが異なっている。このことから、富三郎は魚類の学名と和名を主として Jordan らに従って決定したと結論できる。ただし、「魚類目録」には各魚種について学名と和名の他にはシノニム（同種異名）と産地が示し

であるのみで、上の 450種のうち図示されているものは 138種にすぎない。すなわち、標本の同定はこの文献では不可能で、リストに挙げた Jordan らの個々の文献を使った筈である。

「図譜」と「魚類目録」で学名・和名が異なる場合の多いのは、サバ・サワラ・マグロなどサバ科魚類であり、この分類群については富三郎は岸上に従っている。

「図譜」のサバ科魚類の図版では初めに記した学名を線で消して別の学名に訂正してあるものが4枚ある。最初の学名は岸上(1915. 水産学会報, 第一巻)により、訂正は Kishinouye (1923) “Contributions to the comparative study of the so-called scombroid fishes” [サバ型魚類の研究] によっている(表1「『図譜』に採用されたサバ型魚類の種名・和名の他文献との比較」参照)。

他方、軟体動物頭足類(タコ、イカ)の同定に当たり富三郎がどんな文献を用いたかは不明である。「図譜」は頭足類として八腕類(タコ)3種、十腕類(イカ)11種を収めている。同定が難しかったためか、種名が記していないものが多く、また記載してあるものでも、現在の知識からは誤同定と見なされるものもある。

「グラバー図書」に含まれる頭足類に関する唯一の文献は Sasaki (1929) であるが、富三郎はこれには従っていない。例えば、Cuvier (1797) 以来 Octopus [足が8本あるの意] が用いられているマダコ属を、佐々木は Hoyle (1901) によって Polypus (Schneider, 1784) [足が多数あるの意] としている。北隆館(1927)の「日本動物図鑑」や大日本水産会(1932)の「日本水産動植物図集下編」でも同じ属名が使われている。「図譜」の3種の八腕類のうち初め(1913年8月)に描かれたイイダコの属名はいったん Octopus として、後 Cistopus と訂正してあり、2年後の8月と9月に描かれたマダコとアシナガダコ(テナガダコ)の属名ははじめからそうしてある。この Cistopus (囊のある足) という属名は足の付け根の膜(傘膜)にポケット状の粘液囊をもつ Cistopus indicus (Orbigny)(インドダコ)のためだけに Gray, J. E. (1849) が創設したものである。富三郎が誰に従ってマダコなどの属名に Cistopus を採用したのか不明である。

また、甲殻類の同定に用いられたであろう主要文献についても、われわれには推測できない。この点についても、その分野の専門家の研究により明らかになる日がくることを期待したい。

C 「図譜」の編集と「グラバー図書」

「グラバー図書」のなかでも富三郎による書込みが最も多くみられるのは「魚類目録」で、内容別には次のような書込みが残されている。

1. 「魚類目録」の p. 429-430 に追加・訂正として11件が印刷されている。富三郎はそのうち2件について次の書込みをしている。p. 67-68にある4種のモロコ属の属名を Leucogobio から「Squalidas」へ (Jordanらは Squalidus)。

p. 198, 580 *Lepidaplois perditio*の項の下に「580(a), 580(b). see page 430」。

2. 「魚類目録」では、種については和名がローマ字で記載されているが、属名や科名の日本名はない。そのためか全部で199の科名のうち、p. 57-427の56については科名の上または下に「ナマズ」のように日本名を記入。

3. p. 57-428 で、頁の周囲の余白・科名の側・種名の側などに「図譜」の集番号に対応する番号が次の3通りの方法で記されている。「Group 3」のような書込みが58ヶ所、「G 5」のような書込みが18ヶ所、「XIII」のような書込みが30ヶ所。種名に添えた書込みでは「集番号」の後、もしくは単独で更に図版番号が記してある場合もあり、特にフサカサゴ科、カレイ目、ハゼ科などで多くみられる。ただし、「集・図版番号」は必ずしも完成した「図譜」におけるそれとは一致しない。おそらく1917年4月に598枚の図版で編集した段階（第3部、A参照）での図版番号と思われる。

なお、「魚類目録」には「追加」分6種を別として1,230種が収録されている。そのうち224種では一連の魚種番号にV形のチェックがしてある。同様の印が3つの科名と2つの属名にみられる。

4. p. 57-428 にその魚種を描いた画家のイニシャルと作品番号を示す書込みが合計295ヶ所。小田紫星はOもしくは単に数字のみ、萩原魚仙と長谷川雪香はともにH・中村三郎はNとそれに続く数字で示されている。このように「魚類目録」に画家名が記されている魚種は「図譜」では第七集の一部、第十集の半数弱、第十二～二十六集の大部分に対応する。ただし、第十集第3図版（アカタチ）～24図版（トゲハナスズキ）までの画家名は、「魚類目録」では1ヶ所を除き、ひとつずつ前にずれて記録されている。このずれは、後述する「図譜目次」の中にみられるずれに対応している。

5. 次のような訂正がされている。

p. 28, 29 の Family DASYBATIDAE, Dasyatis akajei, Dasyatis kuhlii の下線部を「DASYBATIDAE」, 「Dasybatis」とし、末尾に「?」（ただし、現在では訂正前の学名が使われている）。

p. 216に Mongara-kawahagi; Komon-uwuとあるのを線で消して「megane-hagi」。

p. 359に (Tridentiger に関し) Type Sicydium obscurum Temminck & Schlegel とある下線部を「Sicyopterus」（この訂正は誤りである）。

p. 486の Index右の欄2行目に Shirasu . . . 263とあるのを「363」。

6. 次のように魚種が追記してあり、画家名も記録されている。

p. 169 に「Haplogenyis kishinouyei (Nagasaki higedai)」。

p. 171 に「Parargylops edita Tanaka」。

p. 172 に「Lethrinus richardsoni Gunther, Tamame, Kumame」。

なお p. 168 の 493. *Parapristipoma trilineatum* [イサキ] の横の「0.-82」に続け「Young?」（第十二集第10図版にも学名に Young と添えてある）。

上記のことからみて、富三郎は「図譜」の編集に際し各魚種の配列を決めるのには「魚類目録」を参考にしたにちがいない。「図譜」第一集第1図版（ナメクジウオ）から第二集の最後の第28図版（ギンザメ）までは「魚類目録」（p. 4-31）に出てくる順序とほぼ一致する。しかしながら、次の第三集～第五集には「魚類目録」では p. 57-104にあるゴンズイからサギフエまでが収めてあり、第六集で「魚類目録」の p. 39-54 にあるコノシロからオキエソまでに返っている。同様な例は他にも多く、このような場合富三郎が誰に従って配列を考えたのか不明である。

D 「グラバー図書」の受入れの日付

「グラバー図書」各文献の受入れの日付を調べると、扱われている生物の分野によって際立った差があることに気づく。

魚類に関する文献のうち受入れ年月日が明記されているものは80点である。そのうち70点までが1916年3月までのもので、しかも1914年3月6日に受け入れたものが67点である。残りの10点の受入れは1924年3月から1941年12月の間である。この最後に受入れられているのは倉本（1941）である。

受入れ年月日が記されていない文献のなかに、スミソニアン博物館やアメリカの水産局などの刊行物が52点あり、出版年からみてもこれらの受入れは1914年3月前後であると判断される。

甲殻類の文献24点のうちでは14点に受入れの日付が明記されている。1914年3月が1点あるほかは、1936年4月に4点、翌年6月に9点である。ウミユリ・ヒトデなど他の海産動物の文献8点のうちで受入れの日付が記されているのは1914年3月の1点と、1937年12月の2点である。

「図譜」完成の前後に、蒐集される文献の主な分野が魚類から他の動物へと移っている。このことから、実現しなかった富三郎のその後の計画が推測できる。

それにしても、「グラバー図書」のなかに貝類の文献が全くないのは何故であろうか。その美しさと標本保存の容易さのためか、貝殻の蒐集を趣味とするアマチュアが多い。そのことが却って、恐らくはプロを自認していたであろう富三郎の反骨精神を刺激して、貝に関心を抱かせなかったのであろうか。それとも、長崎には金子一狼氏（リストの部「田中茂穂（1913）」参照）がいて、大正初期には貝の蒐集家として名を馳せていたことから、対抗意識もあって、貝から目を逸らしたのであろうか。

E 「グラバー図書」になかった富三郎の蔵書

現在、長崎大学付属図書館が所有する「グラバー図書」が、かつて富三郎が所有

した海産動物や漁業に関するすべての文献であったとは思えない。

第2部のリストで次のことを指摘した。

Day (1889): Fishes of India は図版 (Plates) の部のみあり、本文 (Text) が欠けている。Gilbert (1905): The aquatic resources of the Hawaiian Islands, Section II The deep-sea fishesが存在するのに、その Section Iの Jordan & Evermann (1905) がない。Goode & Bean (1895): Oceanic ichthyologyは本文のみで図版を欠く。Tanaka (ca1915-1920): Fishes of Japanは全48巻のうち vol. 21-40 がぬけている。このような欠如はいかにも不自然で、富三郎の蔵書に含まれていた可能性は大きい。

前にも記したように、「図譜」が完成したのは早くても1936年であり、甲殻類および他の海産動物の文献は主に 1936-37年に受入れている。また「グラバー図書」のうちもっとも遅いものは1941年に刊行されている。これ以前に日本では次の本が刊行されている。内田清之助 (編)(1927): 日本動物図鑑 (北隆館)、田中茂穂 (1931): 原色日本魚類図鑑 (大地書院)、石川千代松ら (編)(1931-32): 日本水産動植物図集上・下 (大日本水産会)、Siebold, P.F. (1833-1850): Fauna Japonica (復刻版, 植物文献刊行会, 1934)、岡田弥一郎・内田恵太郎・松原喜代松 (1935): 日本魚類図説など。いずれも特に入手が困難であった筈はなく、富三郎がこれらの本に関心を寄せなかったとも考えられない。

なんらかの経緯で、富三郎の蔵書のあるものは散在しているのではなかろうか。そして、いつの日か、図2に示した蔵書印・倉場印・受入れ年月日のスタンプを押した本がどこかで発見される可能性があるように思える。

F 「グラバー図譜」での不明画家と製作年月日

「図譜」各集では図版の前にタイプで打たれた表が一種の目次として付けられていて、各図版について魚種名・標本採取の場所・年月日とともにそれを描いた画家と作品番号が示されている (以後「図譜目次」と記す)。「図譜」作成に主として関与した画家は小田紫星・萩原魚仙・長谷川雪香・中村三郎の4名であり、中村の絵の一部は井上寿一が描いたことが判っている。水産学部は「グラバー図譜」を刊行(1973-1976)するに当たり、「図譜目次」を手掛かりに各図版を描いた画家を特定し、図版ごとの解説のなかに加えた。「図譜目次」では雪香と魚仙は同じHのイニシャルで記してある。この場合、図版に記されたHに2つの字体 (通常のHと、Hの横棒を楕円形にしたもの) があると判断し、いずれがどちらの画家を指すのかは、絵の特徴によって甲斐宗平画伯の判定によったとしている。

このような当事者の努力にもかかわらず、「グラバー図譜」で「画家不明」とされている図版が10枚ある。それらのあるものは、今回発見された「魚類目録」の書込みから誰の描いたものか明らかになった。

同時に、「魚類目録」との照合の過程で、各画家によって魚の眼の描き方に特徴があることに気づいた。この点は今まで見過ごされてきたように思われる。西欧の博物画においては、動物の眼は全部を黒く塗りつぶすことなしに、一部を白く塗り残して輝きを表現し、あたかも視線が前方に向いているかの印象を与える技法が古くから用いられてきた。魚の絵でも同じことが言え、シーボルトのファウナ・ヤポニカ（1840—1850）はいうまでもなく、古くはブロッホの魚類図譜（1782-1785）においても眼の一部は塗り残してある。この技法は伝統的な日本画家にはみられぬものである。「図譜」の最初の画家である小田紫星の描いた魚では、ほとんどの場合眼は全部が黒く塗りつぶされている。対照的に最後の画家である中村三郎の描いた魚では、眼の前上方が扇形に白く残されている。この「新技法」の採用は、富三郎の指示によったのかもしれないが、富三郎の所持する図書から学んで中村三郎が自発的におこなった可能性もある。魚仙と雪香の絵では、上の二人の中間的な描き方がしてある場合が多く、白い部分と黒い部分の境界は判然としない。

上記の「魚類目録」に書かれた画家のイニシャル、または描かれた眼の特徴から「グラバー図譜」で「不明」とされている画家、および誤った名が記されていると判断される画家の名を表2に示した。

「図譜目次」は富三郎が自分で作ったのか、だれかに命じて作らせたのかは明らかでないが、誤記が極めて多いように思われる。著しいのは第八集19図版「マルメジカ」と第二十八集25図版「シマエビ」で、ともに小田紫星のものであるが、描いた日付が前者は1917年1月31日、後者は1913年11月3日になっている。眼の特徴からマルメジカは紫星が描いたことに疑いはないが、かれは1913年6月18日に亡くなっているのである。画家別に作品番号順に製作年月日を並べてみると、年・月・日のいずれにも前後関係からみて誤記と疑われるものが多く浮かび上がってくる。また第四集22図版「ユキウツボ」は図版にN 164とあるのを「図譜目次」では0 164と誤記されていて、そのため「グラバー図譜」復刻版ではこの絵は1917年11月16日に小田紫星が描いたことになっている。

「グラバー図譜」復刻版では2つの字体のHが雪香と魚仙を区別していると判定して画家を特定していることを前に記した。実際には「図譜」の図版余白に現れるHには図4のように3つ乃至それ以上の字体がみられるのだが、図4 a-eは雪香を、f-iは魚仙を示すと判断している。しかし、「図譜目次」では両者を区別することなくすべてHと記してある。しかも作品番号順に並べてみると、図版での異なった字体のHを一緒にして一連の番号がついていることが判る。例をあげると、作品1, 2, 4, 13番には雪香、3, 5-12番には魚仙を示すと考えられているイニシャルが付いている。その上第三集第2図版には「M 222」と記されていて謎を深める。いずれの字体のHにおいてもこの番号が欠けている。描かれている魚（ゴンズイ）の眼からみると雪香か魚仙の作品のように思われるが、「図譜目次」で製作

の日付が小田紫星の存命中の「1913年5月20日」となっている点がひっかかる。

本報告の主題から逸れるので、ここではこれ以上の詳述は避けるが、「グラバー図譜」に記載されている画家名と製作年月日についての再検討が必要であることを指摘しておく。

あ と が き

今回の仕事の収穫のひとつは、「附属図書館が所蔵する『グラバー図書』は昭和28年4月に、それまで三菱重工長崎造船所の社員寮である『清風寮』にあったものを渡辺藤雄氏が水産学部に寄贈した」との経緯が明らかになったことである。このことをご教授下さった渡辺藤雄氏の次女・渡辺信子さんと孫・足立紀子さんに深く感謝する。彼女らの証言を裏付け、寄贈された年月を特定できたのは、附属図書館水産学部分館と丸善(株)との間で昭和28年4月に取り交わされた文献の価格評価に関する往復文書が、「図譜」とともに貴重図書室に残されていたことによる。このような処置をとられた当時の図書館職員の判断に敬意と謝意を表す。

「グラバー図書」がなぜ清風寮にあったのかは明らかにできなかった。これとともに心残りは、渡辺藤雄氏から「グラバー図書」を受け取られた水産学部の先生のお名前が判明しなかったことである。それはそれとして、その「先生」を探す過程でご協力を頂いた佐世保市の朝永清之氏、長崎大学名誉教授の田村 修・入江春彦・銭谷武平・八坂 茂・道津喜衛の諸先生、並びに水産学部第1期生の川崎忠利・坂口 汎・田中末人・浜崎 忠および第2期生の白浜清三・滝川景明・山下一彦の皆さんにもお礼を申し上げる。

この仕事を始めた段階では、231点の「グラバー図書」のすべてが貴重図書室に保管されていた訳ではなかった。半数強のものは一般の図書館資料に混じって、5ヶ所に分散して保存されていた。それらが「グラバー図書」である旨は、水産学部分館の「図書原簿」を除いては、どこにも記されていなかったため、直接その所在を知る手掛かりがなかった。それでも、今回222点まで揃い、一括して貴重図書室に保存することができるようになったのは、水産学部助手征矢野 清、同大学院修士1年の宅島めぐみ・吉田大作の諸氏の協力によるものである。その過程で、附属図書館図書管理係長垣内禎介・参考調査係長下田研一の両氏に多くの貴重なアドバイスを頂いた。これらの皆さんのご協力に厚くお礼を申し上げる。

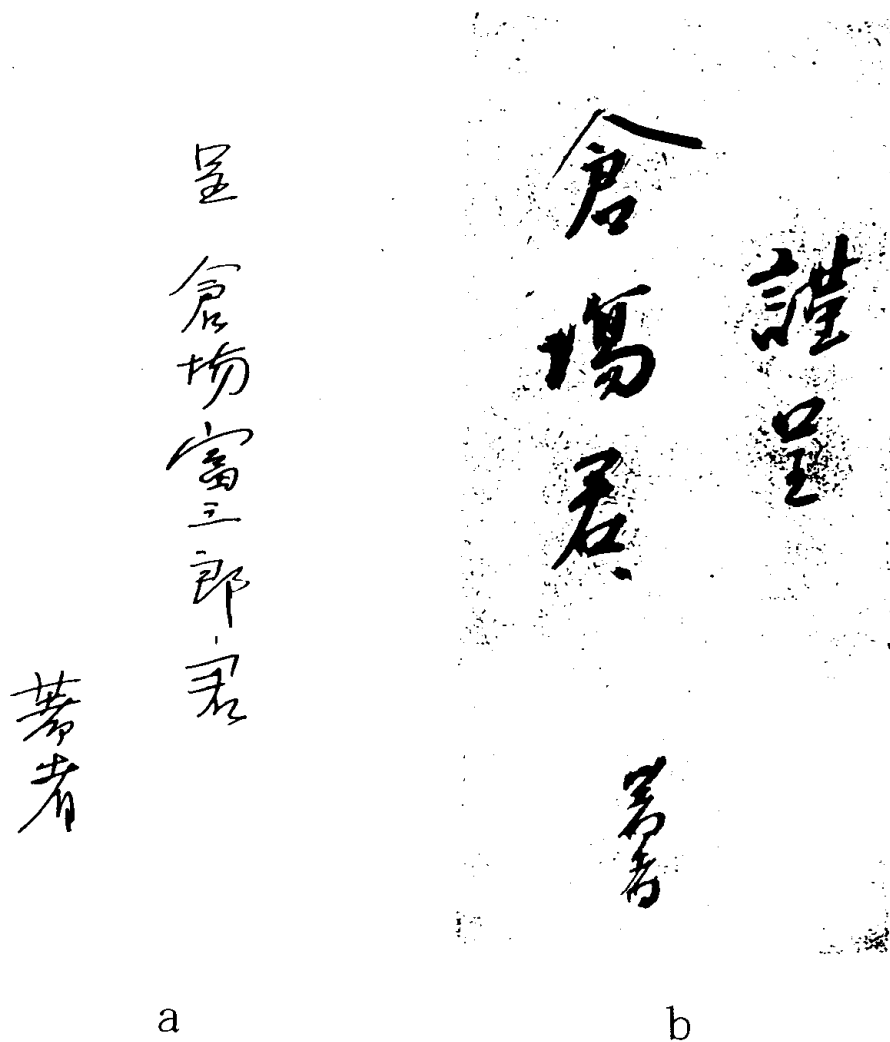
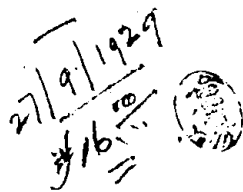


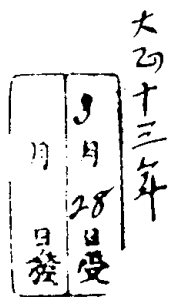
図1 「グラバー図書」にみられた献呈辞
 a 岸上鎌吉博士のもの。「サバ型魚類の研究」(1923)の扉。
 b 青木大勇博士のもの。「水母螫症に就て」(1922)の表紙。



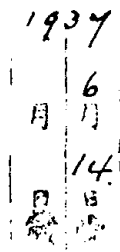
a



b



c



d

図2 「グラバー図書」に使用されている蔵書印、倉場印、および受入れ年月日のスタンプ。

No. 1	36	110.21	390			
2	29	29 22	27			
3	16	27 23	15			
4	7	24	19			
5	17	25	31			
6	7	26	24			
7	17	27	20			
8	18	28	13			
9	19	29	21			
10	27/28	30	30			
11	32		7			
12	22		598	4/17		
13	17					
14	10					
15	13					
16	11/12					
17	31					
18	13					
19	24					
20	23					
	390					

図3 「グラバー図書」のある和冊子に挟まっていたメモ。「図譜」の予備的編集が大正6（1917）年4月になされていたことを示している。

H 61	H. 287
a	b
H. 112	H 299
c	d
H. 262	
e	
S. 342	H. 259
f	g
H. 255	H. 197
h	i

図4 「図譜」図版上に書かれている画家・作品番号の記録のうち、Hを表すさまざまな字体。「グラバー図譜」復刻版では上のa-eは長谷川雪香、f-iは萩原魚仙を示すとしている。

表1 「図譜」に採用されたサバ型魚類の種名・和名の他文献との比較

「図譜」 倉場富三郎, 1936	「サバ型魚類の研究」 Kishinouye, 1923	「魚類目録」 Jordan, et al., 1913
Scomber japonicus Houttuyn, Hirasaba	Scomber japonicus Houttuyn, Saba	Scomber japonicus Houttuyn, Kogaisaba, Marusaba, Hirasaba
Scomber japonicus marusaba Houttuyn, マルサバ	—————	—————
Cybium commerson (Lacepede), * ¹ ヨコジマサワラ	Cybium commerson (Lacepede), Yokoshimasawara, etc.	—————
Cybium nipponium Schlegel, * ² サハラ	Cybium nipponium Schlegel, Sawara	Scomberomorus nipponius Cuvier & Valenciennes, Sawara (Tokyo), Sagoshi (Tosa)
Sarda orientalis* ³ (T. & S.), きつねかつを	Sarda orientalis (Schlegel), Hagatsuwo, kitsunegatsuwo, etc.	Sarda chilensis (Cuvier & Valenciennes), Sujigatsuwo, Hagatsuwo
Thunnus orientalis (Schlegel), クロシビ	Thunnus orientalis (Schlegel), Kuroshibi, etc.	Thunnus thynnus (Linnaeus), Maguro, Sibi
Neothunnus macropterus (Schlegel), * ⁴ キワダ	Neothunnus macropterus (Schlegel), Kihata or Kiwada, etc.	Thunnus macropterus (Temminck & Schlegel) Kiwada
Neothunnus rarus (Kishinouye), こしなが	Neothunnus rarus (Kishinouye), Koshinaga	—————
Neothunnus sp. ウシシビ	—————	—————
Katsuwonus pelamis (Linnaeus), カツオ	Katsuwonus pelamis (Linnaeus), Katsuwo, etc.	Euthynnus vagans (Lesson), Katsuwo
Euthynnus yaito Kishinouye, ヤイト	Euthynnus yaito Kishinouye, Yaito, suma, etc.	Euthynnus alleteratus (Rafinesque) Mebachi, Suma
Auxis hira Kishinouye. ひらめぢか	Auxis hira Kishinouye. Hiramedika, etc.	Auxis thazard (Lacepede)
Auxis maru Kishinouye, まるめぢか	Auxis maru Kishinouye, Marumedika, etc.	Soda-gatsuwo

*1 はじめは *Cybium multifasciatum* Kishinouye.

*2 はじめは *Scomberomorus nipponius* (C. & V.).

*3 はじめは *Pelamis orientalis*.

*4 はじめは *Thunnus macropterus* (T. & S.).

表2. 「グラバー図譜」復刻版(1973-1976)で「画家不明」とされ、
もしくは誤判定された画家名の追記・訂正

集・図版	魚種	「グラバー図譜」の記載	追記・訂正
4 22	ユキウツボ	小田紫星	中村三郎
10 6	イシガキダイ	中村三郎	小田紫星
12 13	シマイサキ	画家不明	小田紫星
17 41	テンスダイ	中村三郎?	萩原魚仙?
25 22	オキトラギス	画家不明	小田紫星
25 24	ミシマオコゼ	画家不明	小田紫星
25 29	ヨメゴチ	画家不明	小田紫星
25 無番	ヤリヌメリコチ	画家不明	中村三郎
25 32	ベニテグリゴチ	画家不明	小田紫星
25 53	(ギンボ)	画家不明	小田紫星
26 17	イザリウオ	画家不明	小田紫星
26 23	アカグツ	(記載なし)	小田紫星